

鹿児島高専 だより

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN),
KAGOSHIMA COLLEGE

第77号

令和5年3月



独立行政法人 国立高等専門学校機構
鹿児島工業高等専門学校

目 次

● 校長室から	01
● 学生の活躍	02
● 学生表彰一覧	13
● 鹿児島高専Supporting Student Dreams	16
● 頑張ってます！課外活動！	22
● 学び舎リニューアル①	23
● 学生会だより	24
● 寮生会だより	26
● 部活動紹介	28
● 旅立ちに寄せて～卒業生あいさつと担任の贈る言葉～	34
● 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧	41
● 卒業生の現在	44
● 教務だより	48
● 総務企画だより	49
● 学生だより	50
● 志学寮だより	51
● 専攻科だより	52
● 国際交流だより	53
● 地域共同テクノセンターだより	54
● 学生何でも相談室だより	55
● 新任教員の紹介	56
● 後援会だより	59
● 学び舎リニューアル②	62



校長室から



これからのために

校長 氷室 昭三

2023年の干支は癸卯（みずのとう）で、寒気が緩み、萌芽を促す年であるといわれています。前回の癸卯の年は60年前で、鹿児島高専が誕生した年です。本校は来年度60周年を迎え、還暦となります。還暦とは、十二支と十干の組み合わせが60年で一巡することから、元の暦に還ることを意味します。これは12と10の最小公倍数が60だからですが、今世界各地で起きていることは、過去60年間の積み重ねによるのかもしれない。

特に後半である1990年代初頭から日本においては、バブル経済が崩壊し「失われた30年」と呼ばれることがあります。携帯電話やパソコン等のICT技術は大きく進歩しました。1995年と2020年を比較すると、データを送受信するネットワーク伝送速度は100万倍ほど進歩し、CD1枚分のデータを送るのに150時間かかっていたものが、0.5秒と短くなりました。コンピュータ処理能力は260万倍の速さになり、1年間かかっていた処理時間が12.1秒と短くなりました。

他方、地球環境の悪化は加速し、想定外の大規模な災害や感染症の猛威など、社会のあらゆる側面において、かつて経験したことのないスピードで大きな変化が進行しています。

こういう時代の中で、変化への対応や価値の創造を実現することがわれわれに問われています。これまで、成長、拡大、効率といった価値に基づく成長型社会を構築してきましたが、もはやこういう社会は成立しなくなってきています。現代は、人生100年時代、

Society5.0の到来、DXの急速な進展、新型コロナウイルス感染症への対応など、社会が急速な変化を続けており、VUCAの時代とも呼ばれるようになりました。VUCAとは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取ったものです。

こういう予測困難な時代においては、一人ひとりが変化を前向きに受け止め、未来の社会を自立的に生きていくことが求められます。一方で、SDGs等に見られるように持続的な社会モデルを再構築していく必要もあります。

この21世紀は、本物の「人間」と「技術」が真に問われる時代であると思っています。学生諸君の役割と使命は、グローバルな視点に立ち、地域社会の産業、文化、生活を支えることによって社会貢献を果たすことです。

グローバルビジネスを展開する企業においては、相手の文化や思想などを理解し、その違いからくる認識の差異を把握するだけでなく、自国の文化について説明でき、教養豊かな会話を展開できなければなりません。そのために、自主性、積極性、進取の精神、柔軟な発想と深い考察力、コミュニケーション力、国際的な視野と多様性の受容などを身につけておくことが望ましく、これから社会に出る学生諸君にとって国際化対応能力を含めたりベラルアーツ（教養）教育の充実が極めて重要なのです。

学生諸君がリベラルアーツを学ぶことで、人間観、歴史観、世界観、倫理観などを切り口に賢者の知識や思考法に触れ、社会人としての視野をより拡大するとともに、物事に対する判断力や精神的豊かさを醸成してほしいと願っています。

特に、想定外の事象についても臨機応変に対応できるだけの力量、その事象を素直に自分の内面に吸収することのできる心の幅と深さ、つまり「人間力」なくしては社会で生きていくことは難しくなっていることを認識する必要もあります。

そもそもこの「人間力」とは、本来すべての人に備わっているものですが、従来の専門教育だけで育つ類のものではありません。それは、さまざまな真理を追究したり、物事の本質を見抜くトレーニングを重ねたりして磨かれるものです。したがって、学生諸君は、専門だけではなく、「人間力」の基礎となる感性を磨きあげるリベラルアーツをきちんと身につけておきましょう。そのための第一歩はたくさんの本を読むことです。

学生諸君に希望が芽吹く春が訪れることを祈ります。

学生の活躍

世界ペーパーアーキテクト大賞2022
審査員特別賞

世界ペーパーアーキテクト大賞

都市環境デザイン工学科4年 細川 爽楽

この度、世界ペーパーアーキテクト大賞2022というコンペにおいて審査員特別賞を頂きました。

このコンペの概要は、紙（越前和紙を一部使用）のみで人が活動する建築物の模型を作るといってもシンプルなものでした。自由度が高く、図面などを必要としない誰でも応募しやすいコンペとなっていました。そのため世界中から八百を超える応募があり、規模の大きいコンペとなりました。

私は紙でしか表すことのできない作品にしたいと思いました。折ったり、曲げたり、捻ったりしましたがどの案も自分の納得いくものになりませんでした。そこで、紙で建築物を作るという考えから紙をイメージできる建築物を作るという考え方に変えました。これにより、紙という材料が強調され作品にインパクトが出るのではと思いました。試行錯誤し考えたものが、重なった紙を捲るという行為です。そこから、今回の

作品ができました。

最終選考会のため、福井県に行きました。そこには、同世代の建築に対する意識の高い学生がたくさんいました。この時、私は福井に来てよかったと心から思いました。なぜなら、自分の立ち位置や情報の共有、繋がりなど多くのものを得られたからです。そこで知り合った人たちは自ら殻を破り、得られるものは全て吸収してやる、そんな意欲のある人ばかりで、同じ業界で生きていこうと思っていた自分がとても恥ずかしくなりました。もし、このような経験をするのがなければ鹿児島高専という小さなコミュニティのなかで何も知らず、知ろうともせず満足して生活しているのだらうと思います。

今回、私は賞を頂いたことよりも多くの人と交流できたことの方が、価値があったと思っています。人は周りの環境に大きく影響されて自分というものを形成していくと思います。そう考えると、多くの人と交流することは大切なことだと思いました。これからは、自分からコミュニティを広げ、増やして成長し続けたいです。



第58回建築設計競技
金賞

作品を作る

都市環境デザイン工学科3年 比良 香蓮

私は今年の夏、高校生設計競技に挑戦しました。授業からの延長で案の改善や修正を行い、最終的にA1版の大きなボードを完成させました。

1か月という短い期間ではありましたが、案を考えていた期間はとても長く感じました。1日ごとに前回よりも良いものを描こうという気持ちで案を改善していく毎日で、心が折れそうになる日もありましたが、最後までやり切りたいという一心で頑張りました。

私が特に悩んだことは、空間を作る作業でした。昔から人が考えないようなことを考えたい性格だったため、型にはまるような住宅の設計ではなく、住んでいて面白く、楽しい家だなと思えるような空間を作ろうと心がけながら設計しました。

このことはプレゼンボードでも同じでした。何を使って描くか、どのようなタッチで描くかはその作品の雰囲気を決めるため大事な選択です。今回私は、色

鉛筆、手描き風という親しみやすい画材、画風で、顔を近づけて見てしまうようなプレゼンボードの作成を心掛けました。昨年度の先輩方の作品を見ると、それぞれに密度やレイアウト、使用する画材も違いとても参考になりました。改善点が多かったためこれからの活動に生かしていきたいと思います。

今回の高校生設計競技への挑戦は、私にとって自信ややる気に繋がるとてもいい経験になりました。



JSTS 2022 Silver Award

充実した5日間

情報工学科4年 松下 淳平

私は本年度、本校が担当校となった JSTS 2022（持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する日本セミナー）に参加させていただきました。

セミナーは各高専、技科大、海外協定校の学生を招き、鹿児島県霧島市の会場とオンラインのハイブリッド形式で行われました。

今回は「みんなを笑顔にする超スマート社会とクリーンエネルギーの実現」をテーマとし、SDGs の知識の習得やグループワークの実施、現地視察などを交えながら、最終日のプレゼンテーションにむけて、準備を進めていきました。

私は自分の英語力を試してみたいという思いで、このセミナーに参加しました。しかし、結果は期待とは裏腹に、アイデアを伝える難しさや自分の語学力の弱さを実感することとなりました。苦戦しながらも、チームメンバーの協力や諦めずに試行錯誤したことで、何とか議論についていくことができました。

2021年度パワーアカデミー作文論文コンテスト 最優秀賞

論文コンテストへの応募を通じて

電気電子工学科4年 山口 幸村

私は、三年時に学科の先生の紹介で「パワーアカデミー作文論文コンテスト」に参加することを決心しました。私はこれからの「AIと人」というテーマが与えられました。今回は初めて論文を書くことになり、何から始めれば良いのかわかりませんでした。先生に相談したりさまざまな文献を参考にしたりして、徐々に進めていきました。私はまず、AI技術の進歩が私たちの生活にどのような影響を与えるのかを、スマホなどのこれまでの技術革新と比較して検討しました。今よりも便利になることは明確であり、AIは人間に様々な利益をもたらすことでしょう。しかし、必ずしも良い影響ばかりを与えるわけではないはずで

そこで私は、「AI」がこれからも人の便利な道具の一つのままでいてくれるのかという疑問を持ちました。「AI」は現在も急速に成長を続けています。「AI」がもし、自覚を持つことがあるとすると私たち

私のチームは、インドネシア、タイ、フィンランド、モンゴル、日本出身の学生、計6名で、「安定したエネルギー供給」について議論を進めました。それぞれのバックグラウンドが違うからこそ、新たな視点や自分では想像もつかないアイデアに触れることができ、今後の学習意欲向上にもつながりました。

また、試行錯誤した議論のおかげか、最終日の成果発表では賞をいただくことができました。

最後に、JSTS 2022 を通して多くの参加者の方々といろいろな視点から議論を行うことができ、充実した5日間を過ごすことができました。

来年度に開催予定の JSTS 2023 も鹿児島で開催されるそうなので、興味のある学生は参加してみてもはどうでしょうか？



の便利な道具のままでいてくれるのでしょうか。そんな疑問を私は持ちました。これから先、私たちが「AI」を有効活用するためにはどのような行動をとる必要があるのかと私は考えました。この考えをもとに、今後20～30年後の未来での私たち人間とAIとの関係を考察し、その未来を推察しました。私たちの社会では、日進月歩で技術の成長が進んでいます。その社会の中で、私たちは常に考え、自身の成長を続けていく必要があると私は考えます。そうしなければ、私たち人間と「AI」との立場関係が逆転してしまう可能性があります。私は、技術革新が進んでいくこの社会の中で「AIと人との関係」をこのように考察しました。

今回このような論文を書くという経験を得られたことにより、自分たちの専門分野についてさらに深めていくことの重要性に気づきました。これから、大学に進学し就職していく中でもこのような経験を重ねていこうと思いました。

担任加筆 山口君の作品は、九州パワーアカデミーのウェブサイトで公開されています。

日本高専学会 第28回年会講演会
優秀ポスター賞

作品を作る

機械・電子システム工学専攻2年 指宿 誠

本科の5年生から全ての学生が行う「研究」。私は、本科と専攻科合わせて3年間研究を行ってきました。私の研究では、「形状記憶合金」を取り扱っています。

形状記憶合金とは、変形させても任意の温度まで加熱することで任意の形状に回復する機能を持った金属材料のことです。形状記憶合金は様々な分野で活用されており、工学分野のみならず医療分野にも応用されています。材料そのものが高機能性を持っているため、特に注目を集めています。

ですが、現在実用されているものは100℃を超える高温域で形状回復しません。そこで、100℃を超える高温域でも形状回復が生じる新材料の研究に励んでいます。具体的な研究内容としては、形状記憶合金を作ることから始まり、材料となる金属を原子比で秤量し、アーク溶解炉という機械を用いて作製します。合金1つ作るのに1時間近くかかるため、根気強く計画的に

研究を進める必要があります。そして、作製した合金を試験片へと加工し各性能試験を行い、考察していくという流れになります。

この研究の難しいところは、作業量が多いところです。私の研究は合金を作らないと始まらないので、計画的に合金を量産し、試験片へと加工する必要があります。研究時間外や休日等も使って研究を進めました。

その成果か、令和4年の夏に行われた学会で優秀ポスター賞をもらうことができました。大変なこともありましたが、持ち前の忍耐力で地道にコツコツとやってきたからこそ、このような素晴らしい賞をとることができたと思っています。

来年からは就職し、これからの社会を支えていく技術者として働いていきます。時にはつらいことやくじけそうになることもあると思いますが、研究で培ってきた継続力と忍耐力で頑張っていこうと思います。後輩の皆さんも研究頑張りましょう。



日本高専学会 第28回年会講演会
優秀ポスター賞

感動をありがとう

電気情報システム工学専攻2年 駒走 英作

2022年11月21日、4年に一度のサッカーの大祭典FIFAワールドカップが開催された。わが国の代表チームはベスト8以上を目標としており、それを達成するためには、まずグループステージ(GS)を突破しなければならない。GSを突破することができるのは4チーム中上位2チームのみであるにもかかわらず、日本が割り当てられたグループEは、サッカー強豪国のドイツとスペインがいる、まさに死の組だった。日本は大会開催前からGS敗退濃厚だと予想されていた。しかし、下馬評を覆し圧倒的格上であるドイツ・スペインから大金星をあげて、見事GSを一位で突破した。日本中が歓喜に沸いた瞬間である。サムライブルーは惜しくもベスト8には届かなかったが、これから後世へ語り継がれる歴史を、確かに紡いだ。

私は、FIFAワールドカップにおける日本チームの大躍進を目の当たりにして、ふと、鹿児島高専に在籍して

いた4年間で何を成し遂げたかと顧みた。一番心に残っていることは、今年度の日本高専学会における優秀ポスター賞と、鹿児島高専の学生表彰を受賞したことだ。

私は、「画像の構造に着目した色量子化法の一提案」というテーマのもと研究を行っていた。これは、GIF画像に代表される、減色処理によるファイル圧縮方法をもとに、従来手法とは異なったアプローチから画像内の特徴的な画素の色を抽出して、より違和感のない減色画像を作成しようというものである。本科から専攻科へ進学したときに研究テーマを変えたため、最初は右も左も分からず不安を抱えていたが、担当教授の指導のもと、ベストを尽くすことができた。

この受賞は、鹿児島高専で過ごした4年間の集大成である。この先まだ何十年と続く人生の中で辛く苦しいことが待ち受けているであろう。そのときに、ここで過ごした日々を思い出すだけで、日本代表選手が決めたあのゴールのように、心が沸き立ち元気が出るような経験ができたのは幸運である。



日本高専学会 第28回年会講演会
優秀ポスター賞

回生機能を有するNPC昇圧チョップの研究

電気情報システム工学専攻1年 吉永 大成

私は、日本高専学会第28回年会講演会で優秀ポスター賞をいただくことができました。

コロナ禍で大変な中、対面とオンラインでの臨機応変な形でこの学会を開催してくださった関係者の皆様、ポスターを見に来てくださった方々へ深くお礼申し上げます。今回、「回生機能を有するNPC昇圧チョップの研究」と題して発表させていただきました。

現在、世界でCO₂の排出規制の厳格化や地球温暖化対策等の観点から電気自動車が注目されています。私たちの研究室では、その電気自動車に用いられているインバータの効率を上げるため、NPCインバータと昇圧チョップを組み合わせた「NPC昇圧チョップ」の研究を行っています。

既存の研究では、電気二重層キャパシタ（以下、EDLC）を直列接続した2相昇圧チョップが提案されていました。このシステムをNPC昇圧チョップに適

用させ、回生機能を有するNPC昇圧チョップを実現することを目的として研究を行ってきました。

現在は、充放電制御、直流リンク電圧制御、電流制御を同時に行おうとすると、電流が暴れてしまうという問題が発生してしまいます。しかし、スイッチングによって3つの制御を同時に行えるようにすることで回生機能を実現できる可能性があることが分かりました。IGBTの数や、スイッチングによる制御方式など改良を重ね、回生機能を実現していきたいと考えています。

逆瀬川先生のご指導の下で、NPC昇圧チョップに関する研究を約2年間行ってきました。その結果が、鹿児島高専で行われた学会で優秀ポスター賞という形で認められたことを大変うれしく思います。今後の研究活動で少しでも成果が得られるようにこれからも精進していきたいと思っています。

最後に、同じ研究室でともに研究を行っている瀬筒君、ご指導してくださった先生、先輩方に心から感謝申し上げます。



日本高専学会 第28回年会講演会
優秀ポスター賞

大地震に負けない構造物

建設工学専攻1年 伊瀬知 奈那美

私は、日本高専学会第28回年会講演会で優秀ポスター賞をいただくことができました。

コロナ渦の中ですが、会場とオンラインに分かれた臨機応変な形で学会を開催してくださった関係者の皆様に、深くお礼申し上げます。

今回、「鉄筋コンクリート柱の残留変形評価を目的としたパラメトリックスタディ」という題目で発表させていただきました。

日本は世界的に見ても地震が多い国で、大きな災害を身近に感じることや、日常生活の中で揺れを感じることが多くあると思います。鉄筋コンクリートの構造物は大地震によって大変形すると、残留変形という変形が生じます。残留変形が大きいと建て替えや大規模な修繕の必要性があるため、私たちはそれを抑制する技術を開発しています。

昨年度までの研究で解析モデルを作成していたた

め、本研究ではより簡単な残留変形の評価方法について検討しました。

柱の長期軸力による復元力は、大変形を経験した後の建物の残留変形の抑制に大きく影響します。

比較的低軸力で残留変形が生じやすい柱を対象として、本研究で提案した、軸力比と鉄筋比をパラメータとした方法で、より簡単に残留変形を評価できる可能性があることが分かりました。

川添先生のご指導の下で、残留変形に関する研究を2年間行ってきました。その結果が、鹿児島高専で行われた学会で、優秀ポスター賞という形で認められたことを大変うれしく思います。本科5年生で一緒に卒業研究を行ったジャクソン君、ご指導してくださった先生、先輩方に心から感謝申し上げます。



日本シミュレーション学会国際会議
Student Poster presentation Award

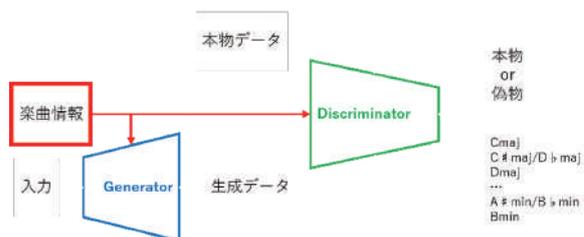
Student Poster presentation Award

電気情報システム工学専攻2年 森田 龍斗

私は、2022年8月31日から9月2日に開催された日本シミュレーション学会国際会議において、Student Poster presentation Award という賞を頂くことができました。多くの発表者の中での受賞だったため、非常にうれしく、光栄です。

私は、「CGANを用いた自動コード推定」というテーマで、楽曲中の和音を推定する研究を行っています。GANとは、敵対的生成ネットワークというニューラルネットワークの一種で、データを生成する Generator とデータを識別する Discriminator が互いに競い合うように学習を進めることで、Generator はより本物に近いデータを生成できるように、Discriminator はより正確にデータを識別できるようになります。

先行研究では、DCGANを用いて自動コード推定を行っていましたが、推定精度は73.2%と良くありませんでした。私は、まず先行研究の精度を再現しようと、



DCGANを用いた自動コード推定を実装し実験を行いました。先行研究より悪い精度が出てしまいました。これは、学習データに適応し過ぎる過学習が起きていると考え、Discriminatorの各層に正則化を追加し、Generatorが同じデータばかりを生成してしまうモード崩壊を抑制するために Minibatch Discrimination 層を追加するなど改良を加えました。すると、79.8%まで精度が伸び、DCGANでの自動コード推定を完了しました。

私の提案手法は、Generator と Discriminator に条件を付加して学習することのできる CGAN を用います（上図参照）。楽曲中で使われる音を特定できるキーを条件としてネットワークに与えることで推定精度の向上を図ります。現在は提案手法を実装し、実験、評価を行っています。

今後も研究活動に力を入れ、大学院進学後もこのような賞を受賞できるよう頑張ります。

第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等学校専門学校体育大会
バレーボール(男子)競技 優勝

仲間と掴んだ優勝

男子バレーボール部主将 機械工学科5年
藤田 隼輔

私達男子バレーボール部は、部員42名で、全国高専大会出場に向けて活動しています。また、今年度は始良伊佐地区大会で4年ぶりの3位入賞、九州高専大会でも8年ぶりの優勝という結果を残し、バレー部として一歩前進した1年になったと思います。

今年度も新型コロナウイルスの影響で、昨年度のように延期になるのではないかと不安を持ちながらの活動でしたが、九州高専大会、全国高専大会ともに夏に開催され、目標に掲げていた九州高専大会優勝、そして全国高専大会で1勝を達成することができました。私たち5年生は、今年でバレーボールを引退する学生がほとんどです。これまでの集大成であるこの年に、自分達のバレーボール人生を悔いなく終えることのできる最高の結果を出せたことを心から嬉しく思い

ます。

私はバレーボールを通してたくさんの経験をすることができました。勝つ喜び、負ける悔しさ、チームメイトとの絆、そして感謝の気持ち。自分一人では絶対に達成することのできなかつた九州高専大会優勝の目標もチームメイト、御指導下さった先生や先輩方を始め、保護者の皆様などの応援のおかげで成し遂げることができました。

私は5年間部活を続けてきて、最後までやり切った自分を、チームメイトを誇りに思います。嬉しいことばかりではなく、悔しいことの方が多かったです。それでも最後までやり切ったことは胸を張って自慢できます。5年間最高に楽しかったです。ありがとうございました。



第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等学校専門学校体育大会
ハンドボール競技 優勝

後輩達と掴んだ優勝

ハンドボール部 部長 都市環境デザイン工学科5年
笠師 楽多朗

私達ハンドボール部は、九州沖縄地区高専大会優勝に向けて練習に励んでいます。今年度は、目標としていた九州沖縄地区高専大会の優勝を達成し、全国大会出場を果たしました。この結果をえられたのは後輩達のおかげだと思っています。

今年度のチームで5年生は私一人だけでした。昨年度までは中心的な5年生が複数人在籍しており、練習の指揮やチームの雰囲気づくりなど各々の先輩が担っていました。

しかし、今年度は私とその役割をすべてこなさないといけないと思い、うまくチームをまとめられるのか、大会で結果を残せるのかとても不安でした。また、私のポジションはゴールキーパーでチームの失点を防ぐことができても、攻撃に参加することはできません。

得点を決めることについては、後輩達に頼るしかありません。そのようなことから大会が近づくにつれ焦りが増していき、練習中に指導の言葉が強くなったり、投げやりになったりすることもありました。そんなキャプテンとしても先輩としても不出来だった私に、チームの皆はついてきてくれました。

大会では、攻撃に参加できない私に代わって後輩達が得点を重ねてくれました。頼もしい後輩達の姿に力をもらい、私もいつも以上のパフォーマンスが発揮できたと感じています。1点差優勢のまま決勝戦の試合終了のブザーが鳴った瞬間、優勝が決まったその時に一斉に泣き出す後輩達の姿を見て、このチームで優勝できてよかったと心の底から感じました。

ハンドボール部でいい先輩、いい後輩、支えてくれるマネージャーに出会えたからこそ同級生がいなくてもやり続けられたと思います。5年間ありがとうございました。



柔道部です

柔道部顧問 一般教育科 野澤 宏大

今年度、柔道部は昨年度よりもさらに柔道部っぽくなりました。まず、外部コーチに内村秀樹六段が就任しました。そして1年生が2名入部してくれたことで、団体戦も5人で組めるようになりました。柔道の競技人口が劇的に減少を続ける昨今、新入部員の存在は非常に嬉しいものです。その嬉しい出来事は、地元鹿児島(国分武道館)で開催された九州沖縄地区高専体育大会で花開きました。団体戦は昨年度の代替大会に引き続き優勝。個人戦では、66kg級で内園春輝君(2E)が優勝、井之上賢成君(1M、1年2組)が準優勝、73kg級では川畑賢志郎君(5C)が優勝、藺田清ノ介君(2M)が3位、そして81kg級では尾辻朱蓮君(1I、1年3組)が準優勝となりました。なお個人戦は、準優勝以上が全国大会出場となりますが、そもそも団体戦で優勝しているので、全員で全国大会(香川県高松市)に出場できました。

このように、とんとん拍子で全国大会まで進みましたが、やはり世の中とはそんなに甘いものではありません。

全国の壁は、かなり高いものでした。九州沖縄地区大会では面白いように勝てた団体戦も、全国大会となると、そうは問屋が卸しません。リーグ戦で敗退となりました。外部コーチの内村先生による専門家の目から見ても「決勝に残った高専は結構強い」とのことでした。やはり週3日だけの練習では、難しいのかもしれない。そんな中、個人戦81kg級の尾辻朱蓮君が、1年生ながら見事3位に輝きました。

来年度は、団体戦で全国大会を勝ち進めるようになるといいですね。最後にオマケですが、私は来年度から、九州沖縄地区の競技専門委員長となるようです。



弓道部の躍進！

コロナ禍における部活動

弓道部部长 電気電子工学科4年 原田 健翔

弓道部は、令和4年度の九州沖縄地区高専大会では男女共に団体入賞、全国高専大会では男子団体準優勝という結果を残すことができました。しかし、私が入学してからの4年間は、その多くがコロナ禍で思うようなクラブ活動ができない日々でした。

入部したての1年生の時は、高校生大会や高専大会、他高専との交流戦などが多く、同級生や先輩方も活発に活動していました。全国高専大会にも参加でき、非常に充実した1年間でした。しかし、2年生になると新型コロナウイルスの流行で練習すら行うことができない期間が長く続き、高専大会も中止になってしまいました。

4年生になった今年度は、地区および全国の高専大会で開催場所に直接行って試合に参加できるようになりました。九州沖縄地区高専大会では男女共に上位入賞をすることができ、全国高専大会でも結果を残すことができました。1年次に先輩方に経験させてもらった全国大会をこのコロナ禍の中、再び経験できるとは思っていなかったのが、現地に行って大会に参加でき、さらに入賞を勝ち取ることができて本当に嬉しく思います。

新型コロナウイルスの流行を筆頭にきついことや悔しいこともあった4年間でしたが、めげずに部活動に取り

組んできて良かったです。部長として参加できるのは残り僅かとなってしまいましたが、弓道ができることに感謝して精一杯励んでいきたいと思います。

男子も女子も強い弓道部

弓道部副部长 都市環境デザイン工学科3年 福元 理桜

近年、弓道部は女子部員が増加しており、部員37名のうち、男子部員は25名、女子部員は12名在籍しています。私が入部した時は、女子の先輩が多くおられ、とても練習に参加しやすかったのを覚えています。入部当初は不安に思うこともありましたが、先輩方が優しく話しかけてくださったり、わからないことを教えてくださったりして、すぐに馴染むことができました。私たちは入学当初から新型コロナウイルスの感染拡大もあり、練習ができない日が続いたり、大会が中止になってしまうことが多くありました。久しぶりに対面形式で開催された本年度の九州高専大会では、女子団体優勝という結果を残すことができました。全国高専大会では残念ながら入賞することはできませんでしたが、大変良い経験になりました。

また、弓道部では日ごろの活動以外にも、文化祭で部としてイベントをするなど皆で協力して取り組んでおり、学年や男女関係なく交流を深めることができている。これから、男子も女子も強い部活になるよう頑張りますので、鹿児島高専弓道部を応援していただけたら嬉しいです。





高専弓道大会に参加して

電気電子工学科1年 藤崎 煌司郎

私は中学校で弓道を始め、鹿児島高専に入学してからは、春の高校生大会から出場得る機会を得、日々活動に取り組んできました。今夏の九州沖縄地区高専弓道大会に向けて、日ごろの練習では特に射形に注意しながら練習をしました。時々調子が悪い時もありましたが、先生や先輩方に優しくアドバイスしてもらい、そ

のアドバイスをもとに同級生や先輩達と切磋琢磨しながら伸び伸びと練習をすることができました。

北九州で行われた大会当日は、初めての県外会場での対面形式での大会ということもあり、場の空気に飲まれて緊張しないように、落ち着きを意識しながら競射に臨みました。結果は、男子団体準優勝、また私自身も男子個人優勝という、素晴らしい結果を残せました。また、全国大会に出場したいという思いを抱いていましたので、出場権を得られる成績を残せたことはとても嬉しかったです。その後、神戸で開催された全国高専大会では男子団体準優勝という結果も得られ、大変充実した夏でした。今後も、弓道の修練を通じて自身を磨いていきたいと思っています。



第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等学校専門学校体育大会 バドミントン競技
男子シングルス 優勝

鹿児島に来た理由

電子制御工学科1年 阿比留 弘平

私は三重県から鹿児島高専に入学しました。なぜ地元の高専・高校に入学しなかったのかという質問をたくさん受けます。その時、「本気で勉強と部活をしたいから」と答えています。もちろんそれだけの理由ではないですが、覚悟を持って鹿児島に来ました。

私は九州高専大会の男子シングルスにおいて創部初の優勝し、全国高専大会に出場しました。久しぶりの全国の舞台で他県の選手とぶつかるのを楽しみにしていました。結果は準優勝で、準備した戦術が通用しない部分があると同時に、課題もあり力不足が身に染みだした大会でした。実はこの時、鈴鹿高専に通う姉は同大会の女子シングルスで優勝しました。来年は姉弟優勝という夢を達成するために精進をしていきたいと思っています。

鹿児島高専は高校年代の県大会において、優勝した高校と対戦し、勝利まで数点のところまで追い詰めました。大会では鹿児島高専の可能性を感じました。これまで以上の戦績を残すために勝利に貢献できる選手・革命児になると誓い、新たな歴史を創り遠く離れた家族や応援してくれる方々に恩返しをしたいです。そして、今よりももっと強いチームになれるように私がチームを引っ張っていかようと思っています。いつかこう呼ばれるように願って…「鹿児島高専は全国高専大会・インターハイ常連校」



第57回全国高等専門学校体育大会陸上競技兼
第57回に本高等専門学校陸上競技対抗選手権大会
女子3000m 準優勝

高専大会に出場して

情報工学科1年 酒匂 莉乃

私は、中学生から陸上を始めました。貧血や、怪我で思うように走れなかった期間がよくありました。そのうえ、本番に弱いところも出てしまい、大会などで練習以上のパフォーマンスができず、目標としていた大会に出場することができませんでした。そのため、思い残した陸上を続けたいと思い、高専でも文武両道を目指しました。

8月20日、21日に愛媛県で陸上競技の全国高専大会がありました。私は、800mと3000mに出場し、3000mで2位になりました。ですが、タイムは10分56秒08と自己ベストよりも50秒程遅く、とても悔しい結果となりました。

中3の1月末で部活を引退してから、陸上部に入部するまでに落ちた体力がなかなか戻らず、また、貧血の心配もあり、しっかりと走りきれるか不安の多い

レースでした。結局、誰とも競ることなく、前の選手にどんどん離されてしまいました。

高専大会を通して、大きなスタジアムで、初めて会う選手たちと一緒に走る緊張感を味わえたことや、レースの中で自分の弱さを再確認したこと、そして、全国各地の高専生と交流できたことは、とても良い経験になりました。

- ・来年はもっと納得のできるレースをする
- ・800・1500・3000など全ての種目で自己ベストを更新する
- ・もっと長い距離にチャレンジする

今後の目標です。応援や、サポートをして下さる先生方や、先輩方、友達、保護者に感謝し、練習を頑張ります。



第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等学校専門学校体育大会 陸上競技
男子走高跳 優勝

九州高専大会優勝

情報工学科1年 巻木 海翔

僕は、陸上部に所属し、走り高跳びを専門種目として日々努力している。

陸上競技は中学生の頃から続けていて、様々な困難もありながら頑張ってきた。特に一番つらかったのは、一昨年、去年と2年続いて新型コロナウイルスの影響で、まともに大会を行えなかったことだ。これによりモチベーションは無くなってしまい、練習のやる気もなくなってしまった。しかし、高専に入学して初めての公式の大会である地区総体が行われるということで、喜びがこみ上げてきた。おかげで、練習に対する意識も変わり、やる気も出てきた。その結果、2位で自己記録タイ、と個人的には満足な結果だった。地区総体が終わり、次の目標を九州高専大会に定め、もっと記録を伸ばすために、練習を一生懸命してきた。学校の練習だけでなく、他校の同じ種目をしている友達

と一緒に練習するなど、いろいろと試行錯誤を繰り返した。そして、九州高専大会当日。僕はその時、緊張とともに、早く努力してきた自分を試したいと興奮状態にあった。結果、自己ベストを更新し、優勝することができた。練習していく中で、最も大事なものは、大きな目標を持つことだと気づいた。今現在の目標は、“高専にいる間に200cmを跳ぶ”、“全国高専大会で優勝する”の2つである。今の状況では絶対に達成できる目標ではない。だからこそ、ひたすら練習して少しでも目標を達成するために、今努力している。僕は、ずっと努力した分だけ結果もついてくると信じている。



第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等学校専門学校体育大会 テニス競技
男子シングルス及び男子ダブルス 優勝

九州沖縄地区高専大会を通して

都市環境デザイン工学科3年 山崎 英司

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、今回が初めての高専大会でした。そのため、どのような場所で開催され、会場がどのような雰囲気なのかを知らませんでした。

大会の日程は3日に分かれており、1日が練習、2日目が団体戦、3日目が個人戦という日程でした。1日目の練習では、会場に着いた時には他の高専の学生達がすでに練習を始めており、そのプレーを見て勝てるのだろうかと思いを失くしていました。

2日目、私は団体戦のシングルスに出場しました。初戦を勝ち、準決勝で有明高専とあたりましたが、結果はあと少しのところまで勝てませんでした。しかし、大会の雰囲気を知ることができ、とても良い経験になりました。

3日目は個人のシングルス、ダブルスがありました。

第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等学校専門学校体育大会 テニス競技
男子ダブルス 優勝

5年間の部活動を通して

電子制御工学科5年 梶原 涼世

今大会は、僕にとって、最後の九州高専大会でした。過去に参加した二回の大会では、先輩方にリードしてもらいましたが、今回は自分たちが後輩をリードする立場であり、過去の大会より主体性をもって大会に臨むことができました。

その最後の九州高専大会で、チームの一番手の選手としてプレーしました。これまでにないほどの責任感を、人知れず感じていました。

ダブルスの試合では、ペアの山崎君とコミュニケーションを取ることを意識しました。テニスのダブルスという種目は、ペアとの声掛け次第で、試合の流れが相手に行くか、自分たちに来るかが決まってしまうスポーツです。とにかく笑顔で楽しむことを意識しました。その甲斐もあって、個人戦ダブルスでは、初めて優勝することができました。対戦相手や応援してくれ

シングルスとダブルスの試合を交互に行うため、体力的にはとてもきついものでした。

ダブルスでは5年生の梶原さんとペアを組みました。試合に勝つことも大事ですが、試合を楽しむことを目標に戦うことができました。シングルスでは、「ミスした方が負け」と教えられてきたので、ミスをせず、ラリーを続けることによって相手のミスを誘って試合をしました。

結果としては、シングルス、ダブルス共に優勝することができ、試合を楽しむことができました。

これからはこの経験を活かし、何事も失敗を恐れず楽しむことを意識して様々なことに挑戦していきたいです。



た方にも「この大会で一番楽しそうに試合をしていたよ」と言われ、目標を達成できたと思いました。

シングルスでは、準決勝で、同じチームの山崎君に初めて負け、後輩たちの時代が来たと思いました。最後の九州大会での経験を通して、後輩の育成や主体性を持って行動すること、周りの立場を考えることを学びました。

卒業後は、就職し、新しい環境になるのですが、この5年間、鹿児島高専で学んだ事を生かし、さまざまなことに挑戦していきたいと思っています。

第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等学校専門学校体育大会 剣道競技
女子個人の部 優勝

九州高専大会2連覇

情報工学科4年 川添 桜子

私は、幼稚園から剣道を続けています。今年で15年目となりました。継続することは簡単ではなく、この経歴は私にとって強みとなっています。高専に入学してから勉強やレポートで忙しいですが、自分のペースで部活動に参加することができるので、無理なく両立できて良い環境だなと思います。

コロナの影響により、去年・一昨年と九州高専大会は開催されませんでした。フェイスシールド、マスク着用、コロナでのルールが定められ、やっと今年開催されました。体力が年々落ちてきているのに加えて、マスクやフェイスシールドを付けてするのがきつかったり、コロナでのルールに慣れなかったりと、1年生の時の優勝より今回の優勝は大変でした。

1年生では全国高専大会で3位入賞することができたおかげで、当時の入賞者と仲良くなることができま

した。コロナで大会が中止になったり、延期になったりとモチベーションの継続が難しい時にも、連絡を取り合い、お互い励ましあって仲を深め、頑張ることができました。高専で剣道を続けて1番よかったのは、このように全国の高専の人達との交友関係が広がった事です。

来年の高専大会はきっと剣道人生最後の大会となります。3連覇を目指し、悔いの残らないようにしっかりとやり遂げられたらいいなと思います。



令和4年度 第1回学生表彰一覧

◎スポーツ賞

○団体の部

団体	大会等名	成績
バレーボール部	第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 バレーボール(男子)競技	優勝
バドミントン部	第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 バドミントン競技 男子団体	優勝
ハンドボール部	第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 ハンドボール競技	優勝
弓道部 男子	第9回全国高等専門学校弓道大会 男子団体 第43回全国高等専門学校通信弓道大会 男子団体	準優勝 準優勝
弓道部 女子	第8回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会 女子団体 第43回全国高等専門学校通信弓道大会 女子団体	優勝 優勝

○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
情報工学科 1年 酒匂 莉乃	第57回全国高等専門学校体育大会陸上競技兼第57回日本高等専門学校陸上競技対校選手権大会 女子3000m	準優勝
情報工学科 2年 巻木 海翔	第59回(令和4年度)九州沖縄地区 国立高等専門学校体育大会陸上競技 男子走高跳	優勝
都市環境デザイン工学科 3年 山崎 英司	第59回(令和4年度)九州沖縄地区 国立高等専門学校体育大会 テニス競技 男子シングルス及び男子ダブルス	優勝
電子制御工学科 5年 梶原 涼世	第59回(令和4年度)九州沖縄地区 国立高等専門学校体育大会 テニス競技 男子ダブルス	優勝
機械工学科 3年 相葉 洵之介	令和4年度鹿児島県春季バドミントン大会 男子ダブルス	第3位
電子制御工学科 2年 松永 幸丸		
電子制御工学科 1年 阿比留 弘平	第59回(令和4年度)九州沖縄地区 国立高等専門学校体育大会 バドミントン競技 男子シングルス	優勝
電気電子工学科 4年 原田 健翔	第43回全国高等専門学校 通信弓道大会 男子個人	準優勝
電気電子工学科 1年 藤崎 煌司郎	第8回九州沖縄地区高等専門学校 弓道大会 男子個人	優勝

◎文化賞

○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
都市環境デザイン工学科 4年 細川 爽楽	世界ペーパーアーキテクト大賞2022	審査委員特別賞
電子制御工学科 5年 入尾野 智紀	日本高専学会 第28回年会講演会	活動奨励賞・特別賞
電気電子工学科 4年 永谷 玲葉奈	日本高専学会 第28回年会講演会	優秀ポスター賞
機械・電子システム工学専攻2年 指宿 誠	日本高専学会 第28回年会講演会	優秀ポスター賞
電気情報システム工学専攻2年 駒走 英作	日本高専学会 第28回年会講演会	優秀ポスター賞
電気情報システム工学専攻1年 吉永 大成	日本高専学会 第28回年会講演会	優秀ポスター賞
建設工学専攻 1年 伊瀬 奈那美	日本高専学会 第28回年会講演会	優秀ポスター賞
電子情報システム工学専攻2年 森田 龍斗	日本シミュレーション学会国際会議	Student Poster presentation award

令和4年度 第2回学生表彰一覧

◎スポーツ賞

○団体の部

団体	大会等名	成績
柔道部	第59回(令和4年度)九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 柔道競技男子団体	優勝
バレーボール部	第27回(令和4年度)九州沖縄地区高専バレーボール 秋季新人大会	優勝

○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
電気電子工学科2年 内園 春輝	第59回(令和4年度)九州沖縄地区 国立高等専門学校体育大会 柔道競技男子66Kg級	優勝
都市環境デザイン工学科5年 川畑 賢志郎	第59回(令和4年度)九州沖縄地区 国立高等専門学校体育大会 柔道競技男子73Kg級	優勝
機械工学科3年 相葉 洵之介	令和4年度九州沖縄地区高等専門学校 バドミントン新人大会 男子ダブルス	優勝
電子制御工学科2年 松永 幸丸		
情報工学科4年 川添 桜子	第59回(令和4年度)九州沖縄地区 国立高等専門学校体育大会 剣道競技女子個人戦の部	優勝

◎文化賞

○団体の部

団体	大会等名	成績
鹿児島高専SSD事業 鹿児島コンクリートコンテストへのチャレンジ ゼリーず	鹿児島コンクリートコンテスト2022	ドラコン部門 優勝 ニアピン部門 優勝
鹿児島高専SSD事業 鹿児島コンクリートコンテストへのチャレンジ おとつ島	鹿児島コンクリートコンテスト2022	ドラコン部門 準優勝 ニアピン部門 第3位
鹿児島高専SSD事業 鹿児島コンクリートコンテストへのチャレンジ 高強ドリームス	鹿児島コンクリートコンテスト2022	ニアピン部門 準優勝
鹿児島高専SSD事業 鹿児島コンクリートコンテストへのチャレンジ 坂道ドラゴンズ	鹿児島コンクリートコンテスト2022	ドラコン部門 第3位

○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
建設工学専攻 2年 瀧 龍平	国際会議 7th STI-Gigaku 2022	Best Research Presentation Award by Sumitomo Riko Company
建設工学専攻 2年 瀧 龍平	第58回環境工学研究フォーラム	論文賞
都市環境デザイン工学科3年 比良 香蓮	令和4年度第58回建築設計競技	金賞
都市環境デザイン工学科3年 川越 乙葉	令和4年度第58回建築設計競技	審査委員長特別賞
都市環境デザイン工学科3年 稲葉 陽大	令和4年度第58回建築設計競技	佳作
電気電子工学科4年 永谷 玲葉奈	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト プレゼンテーション部門	審査員特別賞

学生表彰の集合写真



第1回スポーツ賞個人の部①



第1回スポーツ賞個人の部②



第1回スポーツ賞団体の部



第1回文化賞個人の部①



第1回文化賞個人の部②



第2回スポーツ賞団体及び個人の部



第2回文化賞個人の部



第2回文化賞団体の部

鹿児島高専 Supporting Student Dreams

のご紹介

鹿児島高専では、学生のもつ潜在的な能力・向上心を引き出し、それらの涵養と実現に向けた支援を全学的に行うために、鹿児島高専 Supporting Student Dreams (SSD) を実施しています。堅い言い方になりましたが、学生たちの「こんなことをやってみたい」「こんなコンテストに出てみたい」といった夢や目標をサポートするための取り組みです。

具体的には、(1) 学生が自主的かつ主体的に取り組むもの、(2) 本校教職員のサポートのもと取り組めるもの、(3) 高専の学生が取り組む活動として相応しいもの、という3つの条件を満たした活動に対して、必要な経費を校長裁量経費から補助しています。

今年度は、以下の活動が採択されています。

- ・高等専門学校デザインコンペティション 空間デザイン部門応募プロジェクト
- ・高校生向け設計競技応募プロジェクト ・コンクリートコンテストへのチャレンジ
- ・高専生による科学館アウトリーチ ・IoT・プログラミング教育支援テーマ開発プロジェクト
- ・百人一首競技会への参加 ・e-sports の認知と普及を通じた主体性のある学生の育成
- ・映像制作コンテストへの参加と地域団体などからのデザイン制作の要望に応える活動
- ・「フットパス・コースマップ作り」プロジェクトー鹿児島高専×伊佐市大口東校区コミュニティー

以下では、鹿児島高専 SSD で支援を受けた活動について参加している学生やサポート役の担当教員から報告をしてもらいます。

高等専門学校デザインコンペティション 空間デザイン部門応募プロジェクト

それでも

都市環境デザイン工学科5年 菊永 慧

鹿児島高専に入学して早5年。都市環境デザイン工学科に在籍できるのも残りわずかとなった。建築業界に携わりたいと建築士を目指し、入学してみたはいいものの、鹿児島高専の都市環境デザイン工学科は旧学科名が土木工学科であったことの名残が強く、「土木」中心の講義が行われていた。しかし、意匠系の先生が配属されたことでそんな風潮も変わりつつある。自分は現在、その先生の研究室に配属され、指導のもと卒業設計を進めている。その過程でデザコンへの挑戦となった。

デザコンには、卒業設計で計画しているものを一度完成させ提出する形をとった。敷地情報等は日頃から収集していたこともあり苦労しなかったが、肝心の形にするところで躓いてしまった。

結果は予選落ち。当然の結果だった。やはり建築は日頃の積み重ね。自分にはその努力が足りていなかった。

た。案を練りだすのにしても色々な方向からの視点で見るべきであった。1つ上の先輩が入賞していたこともあり、とても悔しかった。しかし、その悔しさがあるからこそ次に生かすことができるはずだ。

自分はコンペ等の受賞歴はない。そのため設計に対する自信もない。時に自分は設計に向いていないと思うこともあるけれど、一度自分の目指した道であり、「向いていない」で終わらせてしまいたくない。これからは挑戦するものが増え、それと共に失敗も増えていくだろう。うまくいかず挫折したとしても、それでもと言いつけ自分の目標と向き合い努力し続けていきたい。



高校生向け設計競技応募プロジェクト

挑戦

都市環境デザイン学科3年 川越 乙葉

鹿児島高専に入学して3度目の夏休み。私は、新しい挑戦に胸を高鳴らせていた。鹿児島県高校生建築設計競技への参加である。「家族みんなで幸せに暮らす住まい」をテーマにした設計を行い、その内容をA1のプレゼンボードにまとめて応募するというものだ。高安先生にサポートして頂き、今年は、都市環境デザイン工学科3年生の4人がこの設計競技に参加した。

夏休みに入り、まず私たちは、前期の授業で行った創造設計課題をもとに、ミーティングを繰り返しながら設計の案を練った。家族の設定から、要望にどのような設計で応えるのか？デザインは？配置計画は？外部空間は？…など考えることが多く思うように進まなかった。しかし、仲間と意見を共有し、先輩方や先生にアドバイスを頂く中で、どんどんより良い案となっていくのを感じた。図面が決まると、プレゼンボードに図面やパースを配置して書き上げていく作業だった。レイアウトやパース、設計趣旨を伝える文章を考

えるなど、初めての経験だった。締め切りも近く、毎日暗くなるまで製図室に残り、作業を進めた。絵具による着色やペン入れなど緊張感のある作業だったが丁寧に仕上げることができた。完成したプレゼンボード見たときは「やりきった！」という達成感と喜びで胸がいっぱいになった。

その結果、審査員長特別賞を受賞することができた。また、全員で学校賞も勝ち取ることができた。私はこの挑戦で、自ら学び、形にすることの充実感や達成感を得た。この経験を生かして、これからの学生生活をより良いものにしていきたいと思う。そして、このような経験をするのができたのは支えて下さった方々がいたからである。応援して下さいました先生方、先輩方、そして一緒に頑張った仲間に関心から感謝したい。



コンクリートコンテストへのチャレンジ

最強のコンクリートを目指して

都市環境デザイン工学科5年 山ノ内 諒

12月に鹿児島コンクリートコンテスト2022に参加しました。本大会は県内の大学・高専・高校生が参加してコンクリート強度を競うものです。3年ぶりの開催となった本大会には、本校から7チーム(2~5年生の25人)、県内から合計18チームが参加しました。

本大会には、最も強度が高いコンクリートを競う「ドラコン部門」と、指定強度の近さを競う「ニアピン部門」の2つの競技があります。ドラコンは、セメント量が限られているので、強度を高めるためにどれだけ練り混ぜ水を減らすかが勝負のカギです。水の少ないコンクリートは、強度は高くなりますが、硬くなるため型枠に充填しにくくなります。ニアピンは、ドラコンよりも水を多めに入れ指定強度である25N/mm²を目指して試作しました。コンクリートの強度試験は28日間(材齢)水中養生した試験体を使用するのが一般的ですが、試作品が指定強度を大きく超えた場合は、逆算して14日などの短材齢の試験体で大会に挑んだチームもあり

ました。各チームとも、配合、練り混ぜ時間、養生方法などを変えて、試行錯誤を繰り返しながら、最強のコンクリートを完成させました。

大会の結果、鹿児島高専は126.0N/mm²でドラコン部門の優勝、24.85N/mm²でニアピン部門も優勝を果たしました。また、他のチームも準優勝や上位入賞を果たしました。

先生方のサポートのもと7チームの学年の垣根を越えて、皆でアイデアを出し合いながら、「チーム鹿児島高専」で切磋琢磨し優勝したことは最高の思い出となり、そこに至るまでの経験が宝物になりました。

鹿児島高専では、学生たちの夢をサポートする取り組み(SSD)を行ってくれています。今回のようなアクティブに学べる活動はとても大事なものですので後輩たちにも、このような活動を通して、たくさんの挑戦、経験をしてもらいたいです。



百人一首競技会への参加

競技かるたの魅力

情報工学科1年 金里 華香

私たちは、今年からSSDと松田先生のサポートを頂き、百人一首活動をしています。各々で練習メニューを考えながら楽しく6人で活動しています。みんな初心者&部活掛け持ちですが、100首覚えるところからこつこつと頑張っています。SSD百人一首の最大の魅力といえば、高校生は3年で終わりですが高専生は5年続けられ、「ちはやふる」にも登場するかるたの聖地・近江神宮を目指すことができます。初心者から始めても極めるには十分時間があります。また、百人一首は覚えては消しての繰り返しなので、反復練習になり記憶力が大幅に良くなり、暗記分野がめちゃくちゃ強くなります。

しかし今、1つの壁に当たっています。それは練習場所が無いことです。SSDなので、部室も無く先生が手配してくれた部屋もなかなか使えない状態にあります。けれども、「練習ができないならいっか」とほったらかしにせずに、こつこつと練習を頑張っています。

「フットパス・コースマップ作り」プロジェクト 牛尾校区コミュニティ×鹿児島高専

地元の良さを新しい視点から見つめる

都市環境デザイン工学科2年 永野 陽芽

鹿児島県伊佐市にある牛尾校区コミュニティの方々と協力し、牛尾校区の魅力を伝えるために「牛尾校区まるわかりBOOK」の4ページを担当しました。この活動では、地元の人だけでは気づかない日常に横たわる地域の良さを、外部の新鮮な視点から、コミュニティの方々の話、実際に現地を周って見た景色、感じたことを元にイラストと文章で紹介しました。

まずは牛尾校区の会長を中心に、コミュニティの方々と既存のフットパスコースをまわりました。ここでは、興味を持ったものの写真を撮影したり、伝統や風習についての話を聞いたりしました。帰りには、食事をしたり曾木の滝や湧水丸池などを観光したりしました。

「牛尾校区まるわかりBOOK」を作成する際、こういった活動は初めてだったためレイアウトや文章はどうするか、イラストはどんな感じにするか、なかなか

「高専で百人一首をしたい!」という思いから仲間集めを始め、顧問をしてくださる先生や練習場所を探し、県のかるた協会に申請し、大会用Tシャツを作る…など大変でしたが、一緒に百人一首をしてくれる友達と、真摯に話を聞き助言を下さった松田先生のお陰で、活動ができています。「ちはやふる」で有名になって競技人口が増えた百人一首ですが、コロナ禍で県内の大会人口も確実に減少しています。それが6人も集まるなんて夢のようでした。友達と松田先生に感謝申し上げます。

新春かるた大会や3月には県大会などが行われます。団体戦と個人戦で違う体験ができます。高専生の強みを生かしながら練習を重ね、楽しく活動していきたいと思います。興味を持った方は、競技かるたしてみませんか?いつでも参加お待ちしております!



決まらず、手を付けられませんでした。熊先生のフォローのおかげで締め切り間近になってやっと作業に取り掛かることができ、なんとか締め切りまでに完成させることが出来ました。そして完成したのを見たとき、達成感と喜びでいっぱいでした。また、自分の自信にもつながりました。

この活動は都市環境デザイン工学科の「町づくり」や「景観」という点に関する内容でもあったので良い経験になりました。参加して良かったと思っています。



*この報告は令和3年度の内容です。令和4年度は伊佐市大口東校区コミュニティと共に同様のプロジェクトを進めています。

(サポート教員: 一般教育科 熊 華磊)

e-sports の認知と普及を通じた主体性のある学生の育成

e-sportsもスポーツである

電子制御工学科2年 福重 藍音

近年、メディア等で取り上げられることが増えてきた「e-sports」という言葉の意味を、皆様はご存じでしょうか。

端的に言えば、「人とゲームで対戦する事」これに尽きます。モニターに映し出されたゲーム画面を見つめながら、手元のコントローラーを操作して画面の向こうの相手と競い合う。これが「e-sports」です。

しかし、そうなると分からないのが「なぜe-sportsという言葉が生まれたのか」という事です。なぜ単に「ゲームをする」などというのではなく、「e-sports」という略称で呼ぶようになったのでしょうか。

「ゲームをする」と「e-sports」ではプレイヤーの取り組み方が違うからだと思えます。プレイヤーがゲームを「楽しむため」にするのが「ゲームをする」であり、プレイヤーが他のプレイヤーに勝つために知識を蓄え、鍛錬を重ね、高みを目指すのが「e-sports」であると私は考えています。

ところで、私は「Street Fighter V」という格闘ゲームをe-sportsとしてプレイしています。このゲームは相手と1対1で攻撃し合い、相手の体力を0にしたほうが勝ち、というシンプルなものなのですがただ攻撃すればいいというものでもなく、強くなろうとすると状況に応じた攻撃方法や防御方法を知識として知っていなければなりませんし、勝つために必要なテクニックも練習して身につけなければなりません。

私は1年ほどこのゲームをプレイしてきたのですが、その過程で気付いたことがあります。それは「たとえゲームであっても真剣にプレイすればスポーツとなら変わらない」ということです。身体を動かすかどうか、という細かな違いはあれど、「勝つために鍛錬し競う」という点においてゲームとスポーツは同じなのです。

私はこのSSDの活動を通して、高専の皆さんに「まずはゲームの面白さを、そしてスポーツとしてのゲーム、e-sportsの魅力を広めたいです。



IoT・プログラミング教育支援 テーマ開発プロジェクト

電気電子工学科 准教授 今村 成明

「IoT・プログラミング教育支援テーマ開発プロジェクト」は、小学生・中学生向けに開催するモノづくり公開講座を学生主体でテーマ開発を行って、実施することを目的に活動しています。

令和4年12月時点でのメンバーは、情報工学科1年生が1名、電気電子工学科2年生が4名となっています。メンバーは、他の部活動も兼部しているため、週1日だけ全員で集まり、公開講座のテーマについて一緒に考えたり、マイコンやプログラミング、IoT技術を学んだり、公開講座の準備を行ったりしています。

令和4年度の公開講座は、9月と12月に実施しました。9月は、小学生5名を対象に「デジタル砂時計をつくろう」というテーマで実施しました。メンバーで考えたオリジナルの「デジタル砂時計」は、マトリックスLEDと加速度センサを使い、砂に見立てたLEDの光が上から下へ落ちていく（動く）ものです。どんなタイミングで上下をひっくり返してもエレガントに

動作し、すごく良く出来ています。

公開講座の前半は、抵抗とLED、ブレッドボードを使って、LED点灯回路を作成した後、実際にマイコンをプログラミングしてLED点滅させたり、音を出したりしました。後半は、「デジタル砂時計」の回路を作っていく、プログラミングし、完成させていきました。初めての公開講座実施でしたが、公開講座テーマ案の検討、電子部品・マイコンを使ったデジタル砂時計の開発、講座の流れの検討、説明資料作成などを行い、メンバーには大変、貴重な経験になったと思います。

2回目の12月は、中学生9名に対して「高専生が先生～すごいで！マイコンプログラミング講座～」というテーマで実施しました。クリスマスツリー風の回路基板にフルカラーLEDと白・赤・青・緑・黄のLEDを付け、プログラミングで参加者が考えたイルミネーションパターンを作っていました。参加者も大変、満足しており、充実した講座となりました。



高専生による科学館アウトリーチ

一般教育科 准教授 池田 昭大

Supporting Students Dreams (鹿児島高専 SSD) は、学生を主体とした地域貢献や学生のコンテスト参加をサポートする鹿児島高専の取り組みです。本稿では令和4年度のSSD活動として実施した「高専生による科学館アウトリーチ」について報告します。

今回の活動には3年生6名、1年生5名が参加し、学生主体のアウトリーチ活動(科学振興活動)を鹿児島市立科学館の協力をいただいて実施しました。学生はアウトリーチ活動を通じて地域社会に貢献するとともに、アウトリーチ活動の双方向的コミュニケーションからコミュニケーション能力やプレゼン能力などを向上させる機会を得ることができました。さらに準備段階から主体的に参加することにより、企画の検討なども含め、様々な経験を積むことができました。以下がアウトリーチの概要です。

鹿児島高専 科学工作教室

たのしいこうさくをしよう!

日時: 2022年8月20日

場所: 鹿児島市立科学館 3階科学実験室

アウトリーチのポスター

今回のアウトリーチ開催にあたり、過去のアウトリーチイベントで工作したものに、学生達でアイデアを出し、新しくストローロケットを追加しました。

ストローロケットはスーパーボールを用いたおもちゃで、運動量保存という物理法則を利用したものです。手に持ったストローのロケットを静かに落下させると、ロケットが床で跳ね上がり、落下地点よりも高く飛び上がります。



8月20日に実施したアウトリーチは大盛況で、保護者向けアンケートの回答から179名の参加があった事がわかりました。(アンケート未回答の方も含めるとさらに参加者の人数は多くなります。)また、「お子さんは面白そうでしたか?」、「また参加したいと思いますか?」という質問も、全て好意的な回答をいただくことができました。

アンケートの自由記述においても、「来年もやってほしいです。」「学生さんたちが優しくて、楽しめました。」「学生さんが親切に教えてくださり、子供たちも楽しく作ることができて良かったです。」「学生の方々の熱心な教えに子供たちも楽しく学ぶことができました。またイベントがあれば参加したいです。」など、好意的な意見をたくさんいただきました。

学生達自身も活動を楽しむとともに、自身のアイデアを出すことや、子供たちに教えることなど、様々な学びがあったようです。

ステッカーデザイン

～映像制作コンテストへの参加と地域団体などからのデザイン制作の要望に応える活動～

電子制御工学科2年 有村 春汰

電子制御工学科2年 濱屋敷 遙

私達はもともと動画制作やデザイン作成に興味があったのですが、具体的にどのような活動をしていけばいいのかかわからずにいました。担任の坂元先生に相談したところ、機械工学科の白石先生を紹介していただき、デザインコンテストやデザインを用いた地域おこしの活動がスタートしました。

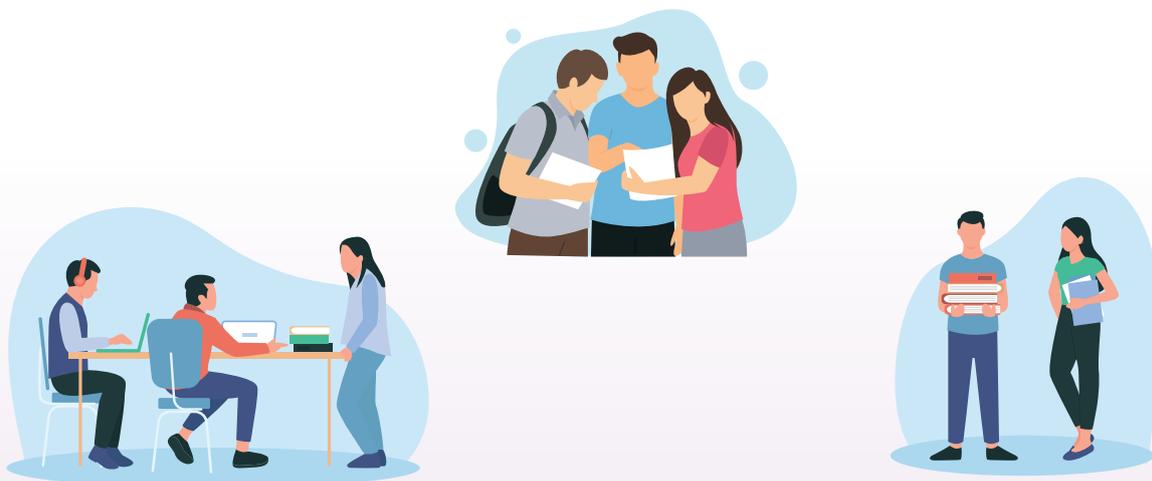
ある時、先生から「オートバイ神社のステッカーを作ってみない？」と提案されました。聞いてみると、曾於市南之郷の地域おこし団体である南之郷盛り上げ隊の方達と協力して、新しくオートバイ神社として認定される檜神社で販売するステッカーを作るというプロジェクトでした。自分達の作品を世の中に出せる滅多にない機会なので、喜んで参加しました。

いざステッカー作りが始まり、テーマやコンセプトを決めていくのですが、新型コロナウイルスの影響もあってオンラインでのやりとりが続きました。そこでは、社会人の方達と時間を決めて目的をもって話し合うというこれまでにない経験ができました。

ステッカーデザインには檜神社に関する神様である猿田彦と天鈿女命を登場させ、それらが勾玉の構図となるように、背景には和を意識した模様を入れるな

ど工夫しました。原案ができてからも、配色や背景の模様、文字の配置などについて様々な意見がでてきてまとめることが難しかったです。最終的に、複数の種類を作成して一番いいものを選定しました。

コロナの状況が落ち着いてきたタイミングで初めて現地視察ができ、その時に南之郷もりあげ隊の方達と実際に交流することができました。鎮座祭にも是非参加してほしいとのことで、鎮座祭のPR動画も制作しyoutubeにアップしました。当日、私達は運営スタッフとして参加させていただきました。実際に自分達が作ったステッカーを販売することができて嬉しかったです。県内外から多くの来場者があり、自分達の想定以上に購入していただきました。今回の活動では、1人で創作するだけでは得られない経験ができ、そして自分達で考えたデザインで多くの人が喜んでくれたのが嬉しかったです。現在も販売中なので、ぜひ皆さん檜神社にステッカーを見に行ってください。



頑張ってます！ 課外活動！

ロボギャルズ かがしま Robogals Kagoshimaの活動

情報工学科4年 脇田 七夏

皆さん Robogals Kagoshima という国際的ボランティア団体が鹿児島高専にあることをご存じですか。

Robogals は、工学分野に興味を持つ女子を増やすことを目的に、2008年にオーストラリアのメルボルン大学の学生が設立した国際的ボランティア団体です。Robogals Kagoshima は、東京・函館に続き2017年に、日本で3番目の支部として、鹿児島高専に発足しました。

Robogals Kagoshima の主な取り組みは、県内の小中学生を中心にワークショップなどを行うことです。ワークショップでは、LEGO社の教育版LEGO マインドストームEV3やSONY社のMESHという小さなIoTブロックを用いたプログラミング体験などを行っています。

この3年間は、コロナ禍で思うような活動ができません。その期間、メンバーはRobogals本部とのミーティング、世界会議Robogals SINEやイギリスの大学教授による講義にオンラインで参加し、スキルアップに務めました。今年度は「国立大隅青少年自然の家」

で小中学生を対象に、久しぶりの対面でのワークショップを実施することができました。

たくさんの方に好評いただき、やりがいを感じるとともに、本来のRobogals Kagoshimaの活動意義を改めて確認することができました。

今後の課題は、メンバー不足の解消と活動の場を増やすことです。現在、活動できるメンバーは3人しかいません。少しでも多くの方に、Robogals Kagoshimaの活動を知っていただき、これらの改善に繋がっていきたくと思っています。

メンバーも随時募集中です。



私たちは理工学に興味を持つ女子学生を増やすためこれからも活動を続けます！



鹿児島高専 Global Club

学生の成長

電子制御工学科5年 入尾野 智紀

今日の社会は語学力に加え、異文化理解力が求められるグローバル社会だという声をたくさん耳にしたいと思います。しかし、それ以上に大事となっているのは「自分の足で新たな一歩を踏み出す」ということだと思います。私たち Global Club では、学生が新たな一歩を踏み出せる環境づくりを目的として様々な活動しております。今回は、特に学生が新たな一歩を踏み出せたであろう活動を1つ紹介します。

異文化交流会

異文化交流会は、月1 or 2回開催しており、参加者が多いイベントです。交流会は、スウェーデンのNTI ストックホルム高校・中国の南京航空航天大学外国語学院の2校と行っています。今回はNTI ストックホルム高校の事例を紹介します。

交流会の狙いは、相手校がスウェーデンの学校ということもあり、本校の学生にとって英語でコミュニケーションを図る必要があるため、馴染みのある日本語か

ら一歩外に踏み出し、伝わらないかもしれない英語をツールとして使用することができる



点、それに加えて英語力の向上が期待される点、ヨーロッパの文化や慣習を知ることができる点でした。

内容としては、1時間程度のフリートークや、「MUCK」というパソコンゲームを行い、両校が自国の観光スポットや食べ物の魅力についての紹介を行いました。

この活動に参加した学生からの声の一部として、「自分にできる簡単な英語でも楽しく会話に参加することができた」、「英語の知識はもちろんだが、積極性やリアクションなどを身につけるとより楽しむことができるといった」等、がありました。

私たち Global Club では、様々な活動を通して学生個々の成長に取り組んでいます。今後もさらに色々なイベントを企画して、楽しみながら活動を続けていきたいと思っています！

*鹿児島高専 Global Club は、今年度本校で開催された日本高専学会第28回年会講演会において、特に優れた活動を行ったと認められる学生及び団体に贈られる「活動奨励賞特別賞」を受賞しています(編)



学び舎リニューアル①

こみち 正門改修と探究の小径

一般教育科 町 泰樹

皆さん、令和4年度の新学期から正門がきれいになっていることに気が付きましたか？実は、本校前の道路を拡張するために、令和3年度末に、正門の改修工事が行われました。

この改修工事に合わせて、正門から覇者の像までの本校のメインストリート北側に、遊歩道も整備されました。「探究の小径」といいます。ベンチも整備されていて、学生たちが思い思いに利用しています。

発案者の氷室校長にお話を伺ったところ、名前の由来は京都にある「哲学の道」を参考にされたとのこと。



学生たちには、一人でじっくりと考えたいとき、仲間と語り合いたいときなど、様々な場面で活用してもらいたいとのことでした。「探求」には、アカデミックな意味だけではなく、自らの人生や幸せについても考えを深めて欲しいという願いが込められているそうです。歩くのが楽しみになりますね。まだの方は是非歩かれてみてはいかがでしょうか。



女性専用スペースリニューアル

鹿児島高専魅力向上プロジェクトチーム
岸田 一也

鹿児島高専魅力向上プロジェクトチームでは、高橋忠仁氏（高橋氏の記事は高専だより第76号p.38をご参照ください。）からのご寄付をもとに、学生みなさんのための事業を企画しています。事業の一環として、厚生会館1F、2Fのリニューアルを企画し、令和4年9月に厚生会館2Fの女性専用スペースのリニューアルを行いましたので、ご報告します。

女性専用スペースは、前丁子校長のときに設置されたものです。設置の目的は、「女子学生同士の交流を促進するため」です。鹿児島高専は、全国的に見ると女子学生の数が少ない学校です。全国高専の各高専において、女子学生の全学生に占める割合は20%を超えておりますが、鹿児島高専では17%ほどとなっています。近年は女子学生の数は増えつつありますが、それでも全国の高専に比べると少ないと言えます。そのため、クラスによっては、1名または2名しか女子学生がいないといったことも珍しくありません。そのような女子学生のために先輩との交流や同級生、下級生と交流

する空間、場所として、女性専用スペースを設置されました。

以下に、リニューアル前後の風景の写真を示します。左上がリニューアル前、右下がリニューアル後です。リニューアル後は、屋根付きの大きなテーブルが設置されています。また、一人で使うためのテーブルも設置されていて、用途に応じて様々な利用ができるようになっていました。また、大型ディスプレイも設置してありますので、動画の視聴やミーティングなどで利用することができます。ぜひ、有効に活用してほしいと思います。



学生会だより

「知る」1年

都市環境デザイン工学科4年 宮菌 廉

学生会長の宮菌です。今年は何かと大忙しな1年でした。気づけば12月。今こうして1年の総括を書いています。こういった原稿を書く機会は年々増えてきましたが、いざ書くとすると毎度、自分の文才のなさや、語彙力の無さにつながります。ですが、自分なりに今年度を振り返ってみたいと思います。

私にとってこの1年は、多くのことを「知る」1年でした。5月、私はコロナ禍で年々盛り上がり欠けてきた高専祭をもう一度盛り上げたいという想いで、文化祭実行委員長と協力し、文化祭にお笑い芸人を呼ぶことを計画しました。5か月もあれば余裕をもって準備できるだろうと踏んでいましたが、私の考えは浅はかでした。お金の面や、動線確保、感染対策、相手方との交渉など、考えなければならないことははるかに多く、先生方を納得させるに至らなかったため結局断念せざるを得ませんでした。自分一人がこうしたいと考えていても、周りを納得させ、理解を得られなければ人はついてきてはくれないことを痛感しました。

そして私には、応援団長という大きな役目もありました。どうやったら優勝できるのかを考えるのはもちろんのこと、様々な規制の中で、



第60回という節目の体育祭を過去最高のものにするためにはどうしたらいいのか、実行委員でたくさんの話し合いを重ねました。この経験の中で私は、見えないところで多くの働きをしてくれている人がいることを知りました。高専祭は、学生が主体となって行っているイベントではありますが、その裏にはたくさんの先生方や大人の方々の協力があります。無理なお願いをしたこともありましたが、親身になって話を聞き、動いてくださった先生方には感謝してもしきれません。

この1年が自分にとって満足のいく1年だったかと言われればそうは思いません。しかし、この1年で成功も失敗も経験したことで、大人になることの意味を知れた気がしています。今年度で得たことを活かす次年度にしていきたいと思います。

高専祭を終えて

都市環境デザイン工学科4年 有馬 大智

第60回体育祭実行委員長の有馬大智です。今回の体育祭では、たくさんのことを感じました。今回はその中から少しだけ書きたいと思います。

1つ目は、自分1人での無力さです。私は初めて組織の先頭に立って物事に取り組むことをしました。先が何もわからなく、現在の進捗はどうなっているのか、自分は応援団や櫓絵にどこまで指示していいのか、どんな指示を行えばいいかなど全くわかりませんでした。

2つ目は周りの人の協力があり体育祭を無事終えることができたことです。私自身では何もすることができず周りの人に頼ってばかりでした。体育祭実行委員をはじめ、各応援団団長・櫓絵長など多くの人達にたくさん助けてもらいました。後輩の実行委員の子達には、しっかりした説明を行うことができず、ただ無理矢理指示をただけになってしまいました。それでも力仕事や雑用などもこなしてくれました。4年生の実行委員には応援団をしている中で、私が手伝ってほしいときに声をかけてくれて手伝ってもらいました。

文化祭含め高専祭という行事の運営側に携われて本当に良い経験でした。大きな行事を一つ終わらせることにどれだけの体力や精神力が必要なのかを初めて知りました。人を動かす難しさ、問題を解決する難しさ、そして一つの行事を終わらせる難しさを体験できました。これは日常生活では経験することのできないことです。

私の意見としては、来年も高専祭を実施してほしいです。そのためには2人の実行委員長だけでなく高専生1人1人の協力が必要です。ぜひ来年も高専祭を楽しんでください！



Re:build



都市環境デザイン工学科4年 財部 了暁

第60回というこの記念すべき年に実行委員長を務めさせていただき、とても嬉しかったです。そして、保護者の方にも、一部参加という形ではありますが、見に来て頂くことができました。そんな復活の文化祭は、大きな事故もなく終了できましたが、特に各局長達の頑張りなくしては成し遂げられませんでした。

パンフレットを主に頑張ってくれた広報局は、レベルの高い物を考えてくれて、とても感動しました。募集から運営まで頑張ってくれた露店局は、文化祭当日の雰囲気を一気に華やかで賑やかにしてくれました。展示局は仕事が遅れ、みんなに迷惑をかけたとパンフレットにありましたが、そんなことを感じさせない展示を集めてくれて、学生や来場者が思わず足を止めて眺める姿をよく見かけました。文化局主催のスマブラ大会は、3年ぶりに前夜祭から予選を行い、2日間収まる事のない盛り上がりを見せてくれました。会計局は、終わってもなおお仕事があって、本当によく頑張ってくれました。ステージや大抽選会の運営をしてくれ

た企画局は、現場の管理や運営を一手に引き受け、楽しく手際よく進めてくれました。

一方、準備や片付けの段階では多くの団体や実行委員、そして先生方に沢山の迷惑をかけました。各局との連携が上手く取れていなかったのが原因でした。来年は最初から最後まで楽しく終われる文化祭にしてほしいと期待しています。

今年の文化祭は良い点・悪い点を含めて来年に繋がるいい文化祭になったのではないかと思います。今年の文化祭を上手に引き継ぎ、また来年は新しい挑戦をしてほしいと思います。もっとこうしとけば良かったと心残りもありますが、それは来年に託し、これまでの文化祭を超えるようにアドバイス、応援、お手伝いをしたいと思います。

令和4年度の実行委員長として大きな経験を積むことができました。本当に、ありがとうございました。



学校の美化は誰が行うの？



学生主事補 逆瀬川 栄一

本校には花を植えてある場所が大きく分けて2か所あります。1か所は正門、もう1つは、覇者の像のまわりです。令和4年度の後期に正門前の花壇のレイアウトを変更しました。学生のみなさん、気づいてくれましたか？正門と覇者の像まわりの花の水やりは学生会のみなさんが毎日交代で担当してくれており、おかげで、正門からロータリーまでの通路が花で飾られ、来校する方々を迎えてくれています。



学校の美化は花だけではなくありません。高専祭前には、学生と教職員全員でゴミ拾い、グラウンドの石拾い、植木の草とり、等をしていただきました。今年度の工夫として、担当区域はできるだけ自分に関係する場所を実施していただきました。おかげで、学校をきれいな状態にして高専祭を迎えられました。

さて、この記事のタイトルについてですが、いったい誰が学校の美化をしてくれるのでしょうか。学校には校内の環境維持を担当して下さる職員の方が一人お

られます。しかし、一人ではできません。本校の現状としては、トイレや廊下の掃除をしてくださるのは、業者の方です。また、花も業者の方が植え替えてくださっています。これは、学生が学業に専念できるための配慮です。



それでは、私たちにできることは何でしょうか。教室はどうですか？部活で使用している場所や寮はどうでしょうか。その場所をきれいにし、環境を維持するのは誰なのでしょう。業者にまかせればよいのでしょうか。教室、グラウンド、トイレ、実験室、寮、校内は私たちを育ててくれる母なる場所、鍛えてくれる父なる場所です。私たちに会いに来られる方々を迎え、次の学年の後輩、新入生にいつかは引き継ぐ場所でもあります。そんな気持ちが少しでも心に芽生えたらとてもうれしく思います。

立派なエンジニアになるためには、まずは環境から。明るい挨拶が交わされ、きれいな学校には美しい心の学生が育ち、素晴らしい技術を生み出すエンジニアが生まれると信じています。

寮生会だより

寮長という経験

寮長 都市環境デザイン工学科4年 甲斐 頌盛

こんにちは。寮長を務めております、都市環境デザイン工学科 4 年の甲斐頌盛です。今回、高専だよりの記事を書かせていただくということで、昨年の 1 月中旬に寮長に就任してから今日までの間で起きた様々な出来事のなかから、特に経験になった 3 つの事についてお話させていただきます。

まず 1 つ目は、コロナ感染についてです。コロナに関しては前例がなかったため、寮運営の上で非常に苦しめられました。というのも、コロナウイルスが世間で発生し始めてから私が寮長になるまでは、寮内の感染者は一人も出ておらず、私も感染者ゼロで一年間頑張ると決心していました。しかし、集団感染や新型株の登場などもあって、コロナの猛威は寮内にも及んでしまいました。感染者は一気に増加しませんでした。さらに感染対策に力を入れようと決意するきっかけになりました。「stop コロナ」から「with コロナ」へと変化する中で、感染予防だけでなく、寮生一人一人に意識をさせることが大切なことであると考え、寮内におけるマスク着用や黙食・黙浴の徹底、他室訪問の禁止などの措置を取りました。結果としては、一言に意識をさせるといっても全員がそれらを完璧に守ることができたかと言われると、自分も含め、わずかでもできていなかった場面もあったかと思います。措置をとるのは簡単でも、それが守られていないのであれば意味がないので考えが足りなかったと反省しています。この反省点を踏まえ、今年度 2 回も起きたコロナに関する閉寮を、来年度は起きないように、頑張ってもらいたいと思っています。

2 つ目は、話すことの経験です。寮長になって、大勢の前に立って話をしたり、寮務の方々や宿直の方々、当直の先生方とお話をさせていただいたり、人と関わる機会が増えました。私事ですが、私は極度に緊張しすぎるタイプです。寮長に就任して初めての寮内放送でも、慌てながら早口で何度も噛んだのを覚えています。今となっては恥ずかしい思い出です。ですが、寮内でのオリエンテーションや行事等の進行、日々の寮内放送を重ねていくうちに少しずつ慣れ始め、自分の中で話し方が確立されているのが実感できました。この能力が身についたおかげで、誰とでも普通に会話ができるようになりました。



寮長になって、相手の方から話しかけられたり、頼られたりと年齢関係なく人と関わる機会が増えたのが非常に嬉しい経験でした。

最後の 3 つ目は、達成感です。寮生会として活動をしていると、様々な場面で達成感を味わうことができます。例えば、寮内イベントです。鹿児島高専の寮には寮生マッチ、七夕パーティー、寮生パーティーの 3 大イベントがあります。どのイベントでも寮生会全員で役割を分担して、企画・運営をしたり、抽選の景品を準備したりします。まだ寮生パーティーについては準備段階ですが、寮生マッチと七夕パーティーではイベントが終わった瞬間に、やり切ったことに対する達成感を味わいました。そしてそれを、一緒に頑張った寮生会メンバーと共有できたのが最高の瞬間でした。また、寮生会には名物ともいえる開閉寮時に行われる交通整理では、約 500 人分の車が 1 日で入ってくるという、なかなか過酷で大変な仕事です。そんな時に保護者の方や寮務の方に感謝の言葉をいただくと、頑張っよかったという達成感が疲れを吹き飛ばします。これも寮生会の仕事の良さのひとつであると思います。

これらを振り返ると、寮長という経験は私自身を成長させてくれたものであると思います。このような素晴らしい経験ができたのは、寮生の皆さん、寮生会のメンバー、主事をはじめとする寮務の方々、宿直の方々、寮食堂の方々、その他寮関係者の皆様のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。残りわずかとなった寮長、そして寮生活。寂しさを感じますが、まだまだ達成できていないこともあるので、残りの時間を大切にしながら、寮長として尽力していきたいと思っています。最後までお読みいただきありがとうございます。

寮生会

副寮長 機械工学科4年 吉元 大悟

副寮長を務めております 4 年機械工学科の吉元大悟です。私は 3 年間、寮生会として多くの経験をさせてもらいました。その中でも特に印象に残っているものを 2 つ紹介させていただきます。

1 つ目は、開寮、閉寮時の交通整理です。交通整理とは、荷物の出し入れの際に多くの車を寮内に入れます。その時、混雑しないように、事故がないように寮生会が各棟、出口や入口に立ち、車を整理する定期的な仕事です。多くのイベントがある中でなぜ交通整理を選んだかということ、寮生会の仕事の中で 1 番大変だからです。夏は猛暑に、冬は極寒の日に、ときには大雨の中でだってやりました。また、車が混雑しうまく連携が取れずに待機させている車の順番を間違ってしまう、保護者の方に怒られたりもしました。しかし、交通整理を通して、瞬時の対応力や周りを見る力、コミュニケーション能力の大切さを学びました。また、「ありがとう」、「お疲れ様」と声をかけてもらう喜びや終わった後の達成感は交通整理でしか味わえないものではないでしょうか。

2 つめは、寮長選挙です。寮長選挙は、毎年寮生パーティーの後、舞台上で演説し、結果発表まで行っていました。しかし、昨年はコロナの影響により放送で行うことになりました。放送とはいえ、自分の公約を中心に演説することにとっても緊張し、うまく喋れなかったことを今でも覚えています。結果は落選し、甲斐寮長の補佐として副寮長になることが決まりました。人前には立てませんでした。自分の考えを多くの人に聞いてもらえる機会は減多にありません。寮長になれなかったのは残念でしたが、貴重な体験ができ、とても満足でした。

何気ない動機で入った寮生会でしたが、多くの先輩、後輩、同級生の関係ができ、寮生活が充実したものになりました。寮生会として活動できるのも残り僅かとなってしまいました。昨年に引き続き、コロナの影響によってイベント事が放送になるなど、思うように出来ないことも多々ありましたが、寮長をはじめとして寮運営に務めて参りました。残り少ない任期、さらにより良い寮にするために精一杯頑張らせていただきます。

寮生会補佐

補佐長 電気電子工学科3年 當房 直大

こんにちは。寮生会補佐長の當房です。補佐の主な仕事内容は、朝点呼や週末点呼の集計です。平日の朝は、各班の班長がとった点呼を集計して、寮生全員が部屋にいるかを確認します。点呼に出ていなかった人は、点呼不在にして呼び出しをします。もし呼び出しても来なくて所在が分からなかった場合は、寮務主事に電話をかけてもらいます。

新型コロナウイルスが流行する以前は、グラウンド点呼といい、グラウンドに集合して点呼をとった後、ラジオ体操をしていました。現在は感染対策として、寮生が自室の扉の前に立ち、班長が確認する整列点呼を行っています。整列点呼時は、点呼不在者はあまりいませんが、グラウンド点呼だと朝から外に出るしんどさからか、点呼不在者が多くみられました。コロナウイルスが終息した時にグラウンド点呼での点呼不在者を無くすことが、今後の補佐の課題です。

週末点呼では、金曜日と土曜日の 21 時と 22 時半に寮生に部屋の扉の前に立ってもらい、班長が確認をとって補佐が集計する整列点呼です。帰省カードの挿し忘れや点呼不在を取り締まります。もし不在だった場合は、呼び出したり寮務主事に電話をかけてもらったりしています。不在者の確認がとれるまで待つので、皆さんの協力がないと成り立ちません。帰省カードの出し忘れや点呼不在を無くすことも我々補佐の達成目標でもあります。

補佐は寮生会の中でも仕事が多く、あまり帰省がしづらくなる大変な部署です。しかし、やりがいのある仕事ばかりです。これからも寮の運営を頑張っていきます。



部活動紹介

硬式野球部

- ①主将・副主将：[高野連チーム] 市來優宇（2E） 渡邊裕太（2E）
[高専チーム] 竹下勘太（5S）
- ②顧問・コーチ：田中智樹 橋口博芳 川添敦也 レーマン
- ③活動内容：ノック、フリーバッティング
- ④今年一番の思い出：秋の新人戦で大敗したことです。夏休みにチーム一丸となって練習してきた分、非常に悔しかったです。ここで得た反省点や改善点をこの冬の練習に活かして、残り少ない大会で一戦でも多く試合できるように日々取り組んでいます。



男子バスケットボール部



- ①部長・副部長：部長 鮫島凜之介 副部長 加世田拓弥
- ②顧問・コーチ：顧問 前蘭正宜 コーチ 冨師淳一 Aコーチ 杉元良成
- ③活動内容：年に2回の高専大会や下級生は地区大会、県大会に向けての週5回の練習、1月にOB会などのイベント等
- ④今年一番の思い出：夏の高専大会で九州準優勝だったこと！

女子バスケットボール部

- ①部長・副部長：小久保光 吉川音々
- ②顧問・コーチ：鞍掛哲治 渡辺創 塩盛秀彰 松下静香
- ③活動内容：バスケを楽しみながら試合で勝利するために練習する。
- ④今年一番の思い出：高専大会で3位入賞したことです。少人数クラブであるため、思い通りの練習がなかなかできませんが、少人数な分、先輩・後輩関係なく部員同士の距離が近く、そのチームワークを試合で活かし、勝利を収めることができました。常に人不足なクラブなので部員を大切に楽しく仲良く活動していきたいです。



男子バレーボール部



- ①部長・副部長：竹之内彪大 井上雅斗 野元悠生樹
- ②顧問・コーチ：拜田稔 田畑隆英 片平智仁 池田匠児
- ③活動内容：九州沖縄地区高専大会連覇を目標に活動しています。
- ④今年一番の思い出：夏の高専大会で優勝できたことです。近年は決勝までコマを進めながらも負けてしまっていたので、この優勝はとても喜ばしいものでした。また、毎日の練習も自主性を持って取り組み、高専の部活動で一番学生が生き生きしていると思います。そんなバレー部で過ごした毎日が、今年一番の思い出です。

剣道部

- ①部長・副部長：川添桜子 吉留颯俊
- ②顧問・コーチ：井手輝二 節政徹也 蒲生義幸 松浦将國
- ③活動内容：日々剣道の修練を積み、各種大会に出場する。
- ④今年一番の思い出：3年ぶりに開催された九州沖縄地区高専大会において、個人戦男女ともに全国大会への出場権を勝ち取ることができました。来年は団体でも出場できるよう稽古に励んでいきたいと思っています。



空手道部

- ①部長・副部長：石室屋拓
- ②顧問・コーチ：澁田諭 中村格
- ③活動内容：トレーニング 打ち込み 型 組手
- ④今年一番の思い出：今年もコロナの影響により、大会などにも出ることができず、活動を制限されてきました。右の写真は型の一つで、バッサイダイをみんなで合わせて行った時の写真です。



柔道部



- ①部長・副部長：須田光揮
- ②顧問・コーチ：野澤宏大 精松祐介 内村秀樹
- ③活動内容：週に3日、柔道場で練習。今年度から外部コーチの内村先生も一緒です。それ以外の日は、各自ランニング・筋トレ等の自主練習をしています。
- ④今年一番の思い出：九州沖縄地区高専体育大会の団体戦で優勝して、みんなで全国高専体育大会（香川県高松市）に出場することができました。来年も全国大会に出場できるように、頑張りたいです。

卓球部

- ①部長・副部長：坂本アクバル大地 伊藤慎祐
- ②顧問・コーチ：玉利陽三 入江智和 堤隆
- ③活動内容：卓球の練習・大会出場
- ④今年一番の思い出：今年の7月に九州高専大会へ出場しました。団体戦では、決勝リーグに進むことができましたが、惜しくも3位で全国大会出場とはなりませんでした。この悔しさをバネに、来年は全国大会へ出場できるように練習に励みます。



陸上競技部



- ①部長・副部長：西村郁哉 久永学美
- ②顧問・コーチ：古川翔大 新徳健 山内正仁 柳詰豪 内文夫
- ③活動内容：自己記録を目指して練習
- ④今年一番の思い出：九州高専大会や高校駅伝など、多くの大会に参加できたことです。自己記録に挑戦する姿はとてもしっかりと、大会遠征が私にとっての修学旅行でした。また、文化祭では射的の露店を頑張りました。部員のみならず練習や、会って話をできたことが楽しかったです。今までで一番忙しく、充実した1年でした。

弓道部

- ①部長・副部長：原田健翔 福元理桜 福富将矢
- ②顧問・コーチ：吉満真一 豊平隆之 揚野翔 白坂繁
- ③活動内容：1)的の前練習：立射、坐射での行射 2)基礎練習：体配、ゴム弓、素引き、巻き藁など
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、高専大会です。九州高専大会では男子団体が準優勝、女子団体が優勝し、全国高専大会では男子団体の部で準優勝する事ができました。来年度も高専大会でより良い結果を残せるようにチーム一丸となって頑張っていきます。



サッカー部

- ①部長・副部長：川畑秀斗 田中翔也
- ②クラブ顧問・コーチ：北菌 池田 山田 椎 國谷 木原 竹下
- ③活動内容：部員80名で「剛勁積勝」というスローガンの元、活動しています。今年の全国高専大会は1回戦敗退となりましたが、高校年代のトップリーグは一部残留という結果を残しました。
- ④今年一番の思い出：コロナ禍で2年連続冬季開催だった全国高専大会が夏季開催されました。1回戦敗退という残念な結果でしたが、次は挑戦者として30回目の全国制覇を目指します。



水泳部



- ①部長・副部長：福満瞬 當房直大
- ②顧問・コーチ：鎌田清孝 安井賢太郎 赤塚道信
- ③活動内容：スイム、筋トレ、夏合宿、ランニング、その他(キャンプ)
- ④今年一番の思い出：前期は3年ぶりの九州大会が行われ、みんなでよい結果を残せるよう奮闘した。全国大会にも出場することが出来た。霧島市の大会にも参加し、沢山の選手が入賞を果たした。後期は主に筋トレを中心とした身体づくりやスイムトレーニングに努めた。今後も感染対策をして楽しく活動していきたい。

ソフトテニス部

- ①部長・副部長：川元隆太郎 藤田聖良 村上大心
- ②顧問・コーチ：安楽四郎 東雄一 今村成明 鳥名賢児 有村峻
- ③活動内容：放課後・休日の練習、大会出場
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、初めて九州高専大会に出場したことです。私は今4年生で、1年生の頃はレギュラーに入れず、2年生、3年生の時は、コロナウイルスの影響によって中止だったため今年が初めての出場となりました。男子の結果は、九州高専大会敗退というとても悔しいものになりました。キャプテンとして責任を感じていました。来年こそは、九州高専大会で優勝してその先の全国高専大会でも優勝できるように日々の練習を頑張っていきたいです！



硬式テニス部



- ①部長・副部長：梶原涼世 山崎英司
- ②顧問・コーチ：屋地康平 奥高洋 中才恵太郎 岸田一也
- ③活動内容：硬式テニス部は週5日間活動していて現在は3年生以下が主体となって活動しています。部員同士の仲も良く積極的に自主練習をして仲間とともに部活動を楽しんでいます。
- ④今年一番の思い出：九州高専大会では個人戦(シングルス・ダブルス)二冠を達成し、練習の成果を発揮できたと思います。初めて高専大会に出た選手も結果を出すなど多くの思い出ができました。

バドミントン部

- ①部長・副部長：谷山嘉隆(5E) 住吉恭幸(5C)
- ②顧問・コーチ：堂園一 新田敦司 佐藤正知 小原裕也
- ③活動内容：日々の練習、練習試合、大会出場など
- ④今年一番の思い出：高校年代の目標であったインターハイ出場は達成することができませんでしたが、九州高専大会では北九州高専との激戦を制し、鹿児島高専初の優勝を達成することができました。全国高専大会連覇は成し遂げることはできませんでしたが、チームの皆と家族そして、バドミントン部を応援して下さる方々のおかげで第3位となり3大会連続入賞を果たす事ができました。



ハンドボール部

- ①部長・副部長：笠師楽多朗 堀之内太凱
- ②顧問・コーチ：白石貴行 熊華磊 谷口康太郎
- ③活動内容：ハンドボール競技を通じた体力増進と精神鍛錬
- ④今年一番の思い出：九州高専大会での優勝です。中心的な先輩達が卒業し少し不安もありましたが、残った部員たちで切磋琢磨し、短時間で戦力を上げて大会に臨みました。結果的に接戦を制して優勝することができました。令和元年度から続いている優勝が達成できて本当に嬉しかったです。



極真空手部



- ①部長・副部長：小永吉隆晴 吉本大吾
- ②顧問・コーチ：瀬戸山康之 濱田敏幸
- ③活動内容：活動内容は、筋トレやミット打ちなどの体づくりを行っています。また、コーチの濱田先生がいらっしゃった時には組手などの実践的な稽古を行っています。
- ④今年一番の思い出：極真空手部は火・水・木曜日に練習を行っています。大会に向けて部員のみならず練習に取り組み、楽しみながら成長できたことが1番の思い出です。

ラグビー部

- ①部長・副部長：佐竹航陽
- ②顧問・コーチ：熊谷博 岩田富男
- ③活動内容：基礎練習（走り、パス、タックルなど）
- ④今年一番の思い出：今年も人数はギリギリでしたが、高専大会に出場することができました。練習時間が短い選手もいましたが、「勝ちたい」という気持ちで懸命に取り組み、試合に挑みました。今年は7人制でしか出場できなかったけど、来年こそは15人制に出場して勝ちたいと思います。



写真部

- ①部長・副部長：水口ひまり（部長） 谷口陽菜（副部長）
- ②顧問・コーチ：保坂直之 三原めぐみ
- ③活動内容：各学生で写真を撮り文化祭や校内で展示する。
- ④今年一番の思い出：写真部では毎年文化祭の文化局と合同で写真コンテストを行っています!!今年も例年よりも景品が豪華で応募数も沢山ありました。皆さん素敵な写真を撮ってくれてありがとうございました。こちらの写真は今年の写真コンテストの優勝作品です。是非来年も皆さん写真を沢山撮ってくださいね!



吹奏楽部

- ①部長・副部長：山崎将平 平島萌衣
- ②顧問・コーチ：松田信彦 町泰樹
- ③活動内容：演奏会（2回）・地域行事や学校行事での演奏
- ④今年一番の思い出：1番はとても決めきれないほど、思い出の多い1年でした。演奏会を2回、地域行事・吹奏楽フェスティバルへの参加等、前例にない忙しさもありましたが、より良い演奏をできたかと自負しています。来年度の演奏にもご期待ください!!



英語部

- ①部長・副部長：久松泰季 大田早記
- ②顧問・コーチ：逆瀬川栄一 曾山夏菜 嵯峨原昭次
- ③活動内容：実践英語・英会話・英文法・発音などの学習・文化祭での英語劇・プレコンへの出場
- ④今年一番の思い出：英語部では毎年文化祭で英語劇を行っています。近年コロナの影響で保護者の方にご覧いただくことができませんでしたが、ついにご覧いただくことができました。また、来年も沢山の方にご覧いただけることを願っています。



軽音楽部



- ①部長・副部長：吉守祥 山内維織
- ②顧問・コーチ：南金山裕弘
- ③活動内容：文化祭ライブ、校内ライブ
- ④今年一番の思い出：軽音楽部の今年一番の思い出は、文化祭ステージでのライブです。今年は4つのバンドが出演しました。それぞれのバンドが個性を活かしたパフォーマンスを行えました。3年ぶりの有観客での開催ということもあり、非常に盛り上がりました。

エコラン部

- ①部長・副部長：上ノ園悠大
- ②顧問・コーチ：嶋根紀仁 江崎秀司
- ③活動内容：エコラン出場機体製作・整備
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は大会に出場したことです。コロナ禍で大会に出場することができず、3年生以下にとっては初めての大会でした。また、大会経験のある部員が一人もいない大会ということもあり分からないことや不安なことだらけでした。しかし先生方の助けもあって無事大会を終えることができました。結果は一台が途中棄権、もう一台がリッター約330kmと満足できる結果とは言えませんがモチベーションの下がっていた僕たちにとっては課題を見つけることができ、とても良い刺激になりました。



メカトロニクス研究部



- ①部長・副部長：阪口純寛 加納龍弥
- ②顧問・コーチ：渡辺創 上野孝行 上沖司 岸田一也
- ③活動内容：高専ロボコンに出場するロボットの製作
- ④今年一番の思い出：今年のロボコンのルールは紙飛行機を飛ばして得点を取るという競技でした。ルール発表の初期段階では紙飛行機をロボットで飛ばすことなんてできるのか？と部員全員が思いました。ですが部員の根気で沢山の紙飛行機を折り実験を繰り返し、ロボットで紙飛行機を発射することができました。

電子・情報・システム研究部

- ①部長・副部長：文榮来智 山田裕貴
- ②顧問・コーチ：武田和大 原崇
- ③活動内容：高専プロコンに向けたアプリやシステムの開発
- ④今年一番の思い出：今年の高専プログラミングコンテストはオフラインで開催されたため他の高専の人たちとの交流ができ充実したものになりました。また文化祭では、オリジナルのゲームや音楽、クイズなどの展示を行い、生徒だけではなく保護者の方々も楽しめる内容にできたのでとても満足いく文化祭になりました。



将棋・囲碁部

- ①部長・副部長：日高勝十 有馬風優
- ②顧問・コーチ：栢健一 芝浩二郎
- ③活動内容：対局、感想戦、勉強会、全国高専大会、交流会など
- ④今年一番の思い出：今年は、福岡県小倉市での全国高専将棋大会に部員三名で3年ぶりの参加でした。一日目午後の団体戦は、全勝で初戦突破しました。二日目は朝から個人戦でした。部長の私は、予選リーグは全勝、決勝トーナメントは初戦敗退しました。三日目は見学のみで悔しかったです。熱い真剣勝負を楽しめた最高の三日間でした。



環境創造物理研究部・物理チーム



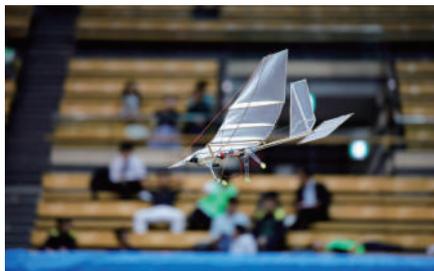
- ①部長・副部長：池増優吾 有蘭諭志
- ②顧問・コーチ：篠原学 杉村奈都子
- ③活動内容：モデルロケットやCanSat（自走ロボ）の製作
- ④今年一番の思い出：文化祭では大変多くのご来場者に制作物や物理実験の発表をご覧いただきました事、大変感謝申し上げます。6月頃から本番前日まで力を入れて作り上げたモデルロケットが天高く一直線に打ち上がる姿には、胸が熱くなりました。これからは3月の大会に向け、この経験を活かして新機体の製作に励みます！

環境創造物理研究部・天文チーム

- ①部長・副部長：神前祐晟 西美乃里
- ②顧問・コーチ：篠原学 杉村奈都子
- ③活動内容：屋上での観測会、神話絵本の製作、プラネタリウムの解説練習等
- ④今年一番の思い出：今年度一番の思い出は物理チームと合同で行った天体観測です。月食の観測と撮影に挑みました。土星や火星などの太陽系惑星も見ることができました。新入生が入ってから初の観測会でしたが、一年生も楽しめたみたいです。



航空技術研究部



- ①部長・副部長：上村風太 西美乃里
- ②顧問・コーチ：福添孝明 橋口正平
- ③活動内容：大会出場機の製作ならびに出場
- ④今年一番の思い出：第18回全日本学生室内飛行ロボットコンテストに出場しました。予選を部としては過去最高得点を更新し5位で通過しました。部内でも今までにない新規設計の機体開発に取り組むことができました。

創造設計部（建築部門・模型部門）

- ①部長・副部長：建築：川口恭平 模型：上ノ園拓海
- ②顧問・コーチ：内田一平 高安重一
- ③活動内容：創造を形に、やりたいを実行する。
- ④今年一番の思い出：建築：建築物の設計図・模型を作ったり、建物の見学をしたりしています!!建築に興味がある方、住宅模型が作りたい方、募集しています! 模型：文化祭でジオラマを作っている部活です。来年も進化させるので一緒に後世に残るもの作りませんか?



旅立ちに寄せて ～卒業生あいさつと担任の贈る言葉～

5年間

機械工学科5年 川畑 秀斗

鹿児島高専に入学してから早5年が過ぎ去ろうとしています。中学生の時に想像していた高専での生活とは全く違った高専での生活。あっという間に5年間が過ぎ去った気がします。5年間の間に先輩、後輩、同級生、いろいろな人たちに出会い充実した高専生活を送ることができました。そんな私の高専生活は挑戦の連続だったと思います。サッカー部のキャプテン、総務、体育祭の実行委員など、いろいろな場面でリーダーを務めさせていただいたこと。クラスメートと切磋琢磨しながら勉学へ励んだこと。海外への留学。5年間の間に様々なことを経験させていただきました。そんないろいろな挑戦の中から今回は部活動について書こうと思います。

鹿児島高専サッカー部は全国高専大会29回優勝という伝統ある部活動です。私が中学2年生の時のサッカーインターハイ鹿児島県予選、鹿児島高専はベスト4まで勝ち上がりました。国立で勉強ができる人たちの集まりなのに部活動まで強いのかと衝撃を受け、高専を受験することを決めました。無事に高専に合格し、いざ部活動を決めるといふとき、公立中学校の部活動でサッカーをしていた私は、体験入部に来ていたほかの同学年の子たちの出身チームを聞いて怖気づき、やっ



ぱり入部はやめようかと、とても悩んでいました。

それでも憧れたサッカー部。入部を決意しました。いざサッカー部に入部しましたが、はじめはボール拾い…。何度もやめようか悩みました。しかし、8月、初めてスタンドから見る全国高専大会。目の前で全国優勝が決まった時、心から嬉しく思いました。2年生の時まではスタンドから見ていることしかできなかった高専大会でしたが、3年生からは少しずつ出場機会をいただき、3年生の冬には初めてメンバーとして全国制覇をしました。ほとんど試合には出られませんでした。高専大会という特別な舞台上自分たちの代でも優勝したい、という思いは大きくなるばかりでした。4年生の時も全国制覇を達成し、いざ私たちの代。チームのキャプテンとなり、プレッシャー半分、ワクワク半分というような感じでした。1年間というのはあっという間に過ぎ去り、九州高専大会、全国高専大会を迎えました。結果は1回戦敗退。悔しい気持ちしかありませんでしたが、最後まで継続した自分を、チームメイトを誇りに思います。最高の仲間たちでした。5年間ありがとうございました。

卒業おめでとう！

機械工学科5年担任 渡辺 創

令和4年度をもって本校を卒業する5Mの学生諸君、卒業おめでとうございます！

令和3年4月に当時の4M担任になってから、早いもので2年が過ぎようとしています。このクラスは3年次に授業を担当していましたので、良い雰囲気クラスであることは分かっていました。学生諸君の雰囲気の良いさと、自身に一度4・5年担任の経験があったこともあり、かなり前向きな気分でスタートしたことをよく覚えています。

実際に受け持ってみた感想ですが、一言で言うと「手のかからない楽なクラス」でした(一部学生は除きます。一人で数名分の苦勞をかけてくれた学生もいます…)。これもひとえに保護者の皆様が基本的なしつけをしっかりとくださったこと、および小・中学

校や本校低学年で担任・授業・部活動指導などを担当された先生方の愛情あるご指導・ご鞭撻のおかげであり、楽な担任業務をさせていただいた立場として、卒業生よりも強く感謝しております。

卒業生諸君はこれからそれぞれの道を自分の足で一歩一歩進んで行きます。これまで関わってくれた多くの人、これから関わることになる多くの人に感謝の気持ちを持ち、君たちらしい素直な気持ちを忘れずに成長し続けてくれることを願っています。

ぜひ、土産話を持って遊びに来てください！

私の高専生活を振り返って

電気電子工学科5年 山崎 将平

地元出水市を飛び出し、霧島市隼人で過ごすこと早五年。入学当初十五歳の私はもう二十歳になり、社会人として新たな一歩を踏み出そうとしている。今回は折角の機会をいただいたので、高専生活を振り返り、自分自身を見つめ直すことにする。

中学三年生の二月、合格通知をいただいてから高専に入るまでウキウキだった私は入学二か月にして早くも壁にぶつかった。勉学の壁である。できていたと思っていた物理、電気回路の試験で早くも赤点を取ってしまい、目の前が真っ暗になった。中学までそこそこできていた私は、高専の授業やテストもこれまで通りできるだろうと感じていた。しかし、それは大きな過ちで順位も低めからのスタートとなってしまった。今思えばあの頃の私は井の中の蛙であった。ここから苦難の高専人生が始まった。試験の度に赤点や落単への恐怖が頭から離れず、成績も思うように伸びず、何度も「自分はこの学校にあっていないのではないかと非常に苦悩した。二年生からは実験が始まるが、ここでも私はダメだった。回路の繋ぎを間違え、プログラムを書き間違え、回路の抵抗素子を燃やし、実験データの取得を一部していない、等々、思い出だけで当時の自分を穴に埋めたいほど仲間迷惑を掛けてきた。(当時は申し訳ありませんでし

た。)そして、壁は勉学だけでなく部活動でもあった。

吹奏楽部に所属していた私は、中学ではできなかったトロンボーンを高専で始めることができ、非常に嬉しかった。しかし、楽しいだけで終わらないのが私の高専生活である。ありがたいことに副部長・部長をさせて頂いたのだが、私の指示や計画性が甘いというもあり、部員の皆にはとても苦勞をかけた。演奏や行事活動を行うたびに多くの不平や意見を頂いた。自分の不甲斐なさを度々悔いた。そんななかで気付いたのは、ただがむしゃらに動くだけではいけない、リーダーが果たすべき役割の認識をしなければならない、ということであった。その考えに至ったのは部活の引退が間近であり、もう少し早く気付いていたらという後悔はあるが、引退日の吹奏楽フェスティバルで私の理想の音楽を奏でることができたのは一生の思い出だろう。

この五年は決して楽な道では無かった。何回も怒られ、悔しい思いも味わってきた。だが、その分多すぎるほどの知識・経験を得ることができた。ここで得られたものは貴重な財産であり、今後の人生で役立つことは間違いないだろう。波乱万丈の高専生活ではあったが、留年や落単もなく今ではよかったと思える。それほど、この五年は濃密で充実したものだ。

最後になるが、五年間共に過ごしたクラスの友達、不甲斐ない自分についてきてくれた部員の皆、諸先生方、そしてずっと支え続けてくれた家族、私に関わってくださった多くの方々。本当に、本当にありがとうございました。

卒業される皆さんへ

電気電子工学科5年担任 奥 高洋

電気電子工学科5年生の皆さん、並びに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。長きにわたる高専生活も、ようやく終わりを迎えます。卒業という言葉の響きにはどうしても「終わり」のイメージが付きまといりますが、終わるのは高専生活だけで、それ以外はむしろこれからずっと続きます。

そもそも卒業とは何ぞや?なのですが、モノの本によれば、卒業= graduation の grad は「階段・段階」を意味するラテン語の gradus が語源であり、電磁気学やベクトル解析でお世話になった gradient、すなわち「勾配」にも通じるらしいです。さらには gress に転じて「歩む・進む」の意味も持つようです。つまり卒業とは、人生の長〜い階段を一段登っただけに過ぎないということですね。皆さんの長い人生でも、このワンステッ

プ(=卒業)が何度も何度も繰り返され、今後も続いていくでしょう。

とは言え、単なるワンステップでなかったことも、重々承知していますよ。一段登るために、並々ならぬ努力を重ねてきた5年間でした。皆さんの着実な成長を、担任として間近に見届けてきましたから、この先も続く果てしない人生の階段に対しても、果敢に挑んでくれるものと確信しています。一段登れたのですから、二段目三段目も登れるはずですよ。その歩みを止めない限り、辿り着く先は無数の彼方です。決して容易いワンステップではありませんが、一段一段を着実に登れば、誰もが到達したことのない頂点を極めることもできるはずですよ。どうぞ臆せず、どうぞ怯まず、これからも登り続けて下さい。期待しています。

ロボコンと5年間

電子制御工学科5年 石原 綾真

「ねえねえ、このスイッチ押したらどうなるのー？」
皆さんは家族写真や証明写真を撮る写真館でこのようなセリフを言ったことがあるでしょうか？今となってはとても恥ずかしい話なのですが、写真館の設備に夢中だった僕のセリフです。小さかった頃、動くものやスイッチ、装置などにもものすごく興味がありました。動物園に行っても動物を見ないで『南京錠』を見ていたとか。

そんな僕が高専を知ったのは小学3年生のとき、高専ロボコンを見たことがきっかけでした。ロボットがまるで人のような動きをして、面白いアイデアで与えられた課題をこなす姿に感動しました。そこで自分にもこういったものが作れないかなと思い、本格的に高専へ入学できないかと考えるようになりました。様々な分野に興味があったので、学科選びにもものすごく苦労した覚えがあります。最終的に幅広い分野を学べる電子制御工学科を選びました。

高専に入ってからワクワクすることだらけで、特に毎週行われる実験ではどのようなことをするのかという気持ちでいっぱいでした。座学をしつつ、実習・実験にて実践的な学習をさせていただき、多くの知識を身につけることができました。

卒業にあたって

電子制御工学科5年 担任 鎌田 清孝

卒業おめでとうございます。君らの4年担任になってから、この日を待ち望むこと2年、長かったようであるという間でした。毎朝、7時50分までに家を出たときには加治木 IC から隼人西 IC まで、一方、50分を過ぎると桜島 SA のスマート IC から隼人西 IC まで乗り、8時20分頃学校に着く。そして30分には教室に行き、君らの行動をずっと見るのが日課でした。SHR に遅刻せずに行かないと君たちに示しが見つからないという気持ちに駆られました。SHR の始める前の10分間、教室を回ったり、椅子に座って教室内を見て「あいつは、元気がないなあ、昨日何かあったのかなあ」、「今日は、テンションが高いなあ、何か良いことがあったのかなあ」、「常連の SHR 欠席組も早く来ていて一生懸命勉強しているぞ？今日は小テストがあるのか？」、「今日は教室が汚いなあ、どうにかならないのか？ SHR 時に注意しないと・・・」、「今日はごみも捨てなくて、清掃も行き届い

学校の授業だけでなく、5年間という長い期間の中で様々な行事に参加してきました。高専祭や寮生パーティ、インターンシップなど、ほかの高校



では体験できないようなことがたくさんありました。その中でも特に印象に残っているのがNHK 高専ロボコンです。自分たちの作りたいものをみんなで話し合い、最終的に一つのロボットを作り上げたときの嬉しさはとても素晴らしいものでした。3、4年時はコロナウイルス蔓延によって集まれなかったため、オンラインでの競技開催となり、いつもにはない新鮮な感覚のロボットコンテストも味わうことができました。学べたことには、ロボット作りだけでなく、チームメンバーとの協力の大切さもありました。目標であった全国大会出場は果たすことができなかったものの、数多くの企業様から賞をいただきました。

私は卒業後、豊橋技術科学大学という学校へ進学をします。そこでは、高専ロボコンより1つランクが上の学生ロボコンという大会に出場したいと考えています。この5年間で培った技術を活かし、自分自身の成長にフォーカスして励んでいきたいです。将来的には、自分が得意としているロボット関係の仕事に携わり、人口減少による労働力問題を解決していきます！

ている」などいつも思っていました。40分から点呼をとり、点呼不在の常連の者に対しては「だらしない。どうにかならないのか？」とちゃんと来ている学生に小言、一方、いつもいる学生がいないと「どうしたんだ？」と尋ね、さらには「コロナ感染予防」、「再評価、再試験は計画的に」、「レポートや提出物の未提出の件」などいつも小言を言っていました。朝から小言ばかりで今更ながら申し訳ないと思っています。その日々もしばらく無くなってしまうと思うと寂しく感じる反面、ほっとしています。自己満足のため、SHR を2年間してきましたが、授業もないのに SHR に出てきてくれた学生さん、気を使って頂きどうもありがとう。一方、授業があるのに SHR に出てこない、さらに授業に遅刻、欠席、挙句には未履修になる学生もいました。その際は自分の指導不足を感じていました。けれども、一斉清掃やイベントなど休むことなく参加し、一致団結してくれたことに感謝しています。4月からは新たな道を進むこととなりますが、遅刻や無断欠席の無いように早目の行動・連絡をし、提出物は計画を立てて早くから進め余裕をもって提出するようにしてください。帰省した際は近況報告をしに寄って頂ければ嬉しいです。

卒業するにあたって

情報工学科5年 精松 冠太

この学校で過ごした5年間は本当にあっという間でした。楽しいこと辛いこと、いろいろなことを経験させていただきました。原稿依頼を受けて、私が書いていいのかと悩みましたが、私なりに5年間を振り返ってみたいと思います。

この学校に入学した当初は、クラス内でも端にいて、みんなについていくタイプの人間でした。話せる友達もそんなに多くはなかったと思います。また、勉強もあまり得意ではありませんでした。赤点を取ることもありました。

そんな私の高専生活を変えるきっかけがありました。それは応援団です。体育祭で演舞を見てあまりの美しさに言葉を失ったことを今でも鮮明に覚えています。2年生になり、応援団の勧誘の話が来たとき、挑戦してみたい気持ちと私でもできるのかという不安な気持ちが入り混じっていました。しかし、挑戦しなかったことで後悔したくないと思い、参加する決心をしました。はじめはあまりの辛さに心がくじけそうになりましたが、同級生はもちろん、先輩後輩が頑張っている姿を見て、最後まで頑張ることができたと思います。また、応援団以外に対する考え方も変わり、勉強も頑

張るようになりました。

3年生でも応援団に参加し、4年生では団長という大役を任されることになりました。はじめは、自分がこの役割を全うできるのか不安しかありませんでした。しかし、活動が続けていく中で仲間の存在の大きさや、みんなで一から作り上げていく大変さと楽しさを実感し、物事に対する考え方が大きく変わったと思います。また、自分らしさを貫こうと強く思えるようになり、何に対しても自信を持てるようになった気がします。すべてのきっかけはたった一つの勇気でした。後輩の皆さん、これからたくさんのことを学び、経験していくと思います。しかし、何事にも自信をもって全力で頑張ることによって何かが変わると思います。だからどんなことでもあきらめないで欲しいです。私はこれから1人の技術者として、様々なことを経験していくと思います。楽しいことだけでなく辛いことも、今まで以上に高専で得た知識や様々な経験を生かし頑張っていきたいと思っています。



卒業は新たな出発点

情報工学科5年 担任 新徳 健



5年情報工学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、この度はご子息・ご息女のご卒業、誠におめでとうございます。4年で担任を受け持つことになった時から、えっ、もう卒業ですか？というくらい、本当にあっという間の2年間でした。もっと担任していたと思ったクラスは初めてです。

皆さんは「卒業」という言葉に何を感じるでしょうか。「お別れ」とか「旅立ち」とかでしょうか。精選版日本国語大辞典によると、「学校で、所定の学業課程を学び終えること。また、学び終えて学校を去ること。」とありますが、その他にも「思想の発展、技術の習得などで、ある段階を完了すること。」ともあります。皆さんは高専で知識だけでなく、技術の習得もしてきま

した。そして、ある段階を完了したと認められたのです。でも、そこで終わりではないはず。みんなそれぞれ、目標をもって高専に入学してきたと思います。そして卒業した。次は？次の目標は何ですか？何が言いたいのかというと、卒業は終わりだけではなく、始まりでもあるということです。高専で得た知識や技術を生かし、これからの新しい挑戦に生かしてもらいたいと思います。そして、高専出身であることに誇りを持って、新たな目標へ向かって出発してもらいたいと思います。皆さんのこれからの活躍を期待しています。



高専生活の思い出

都市環境デザイン工学科5年 小川 滉士郎

高専に入学してから5年が経ち、もうすぐ卒業を迎えようとしています。この5年間の高専生活を振り返ると楽しかったこと、苦しかったことなど様々なことがありました。高専に入学した当時は、高専でうまくやっていけるか心配でした。しかし、今振り返ってみると、とても充実した5年間だったと感じます。充実した高専生活を送ることができたのは、先生方や保護者、友人などの支えあってのものです。高専では寮生活や部活動、応援団などを通して多くの思い出を作り、多くの経験を積むことができました。

寮生活では、2年間を寮で過ごしました。入学して初めての寮生活が始まったとき、とても緊張していたことを覚えています。入学して半年間は同じ学科の先輩と同室でした。同級生の友達のほとんどは一つ上の学年の先輩と同室だったのですが、私は二つ上の学年の先輩と同室だったのでうまくやっていけるか心配でした。しかし、同室の先輩はとても優しくかったので寮生活になじむことができました。また、夜遅くまで友達とゲームをしたり、勉強したりしたことは今となってはいい思い出です。近くに友達がいたことはとてもよかったです。

部活動では、剣道部に所属していました。小学生の

頃に剣道をしていたのですが、中学生の頃はやらずに高専2年生からまた始めました。剣道部には仲がいい人がいない状況で入ったので、馴染めるか不安でしたが、先輩方が優しくしてくれたので剣道



部に馴染むことができました。4年生では部長になり、剣道部をまとめていました。部長らしいことをできていたかはわからないのですが、自分なりに頑張ることができたのでいい思い出になりました。

体育祭の応援団には、3年生の時から参加しました。練習は辛かったのですが、終わった後の達成感はとてもよかったです。4年生では副団長として頑張ったのですが、結果は4位でした。悔しかったのですが、みんなで頑張れたのでよかったです。

こうして5年間を振り返ると、多くの方々に支えられ、過ごしてきたと改めて感じます。これまでお世話になった全ての方々に心から感謝します。

さあ、どこへでも行ける！

都市環境デザイン工学科5年担任 高安 重一

中学卒業から5年間、私も思い出してみると、劇的な環境の変化、出会いや別れ、成長も失敗もたくさんありました。今でも夢に出てくるのはこの時期です。最後に、飛び立つ鳥のイメージを一枚用意しました。皆さんと面談した時に「将来はできるだけ遠くに行ってほしい」と言いました。その距離が遠ければ遠いほど、自分との違いをたくさん吸収できるからです。きっと皆さんはまだまだ遠くへ行けますよ。鳥は自由です。遠くに行くことも戻って来ることもできます。何度飛び立ってもいいのです。

「立つ鳥 跡を濁さず」

これは訪れた地に別れを告げるときや、職務を離れるときの大切な心得です。飛び立った後の水を澄んだままにする見事な去り際です……卒業おめでとう。



専攻科に進学して

機械・電子システム工学専攻2年 上床 雄貴

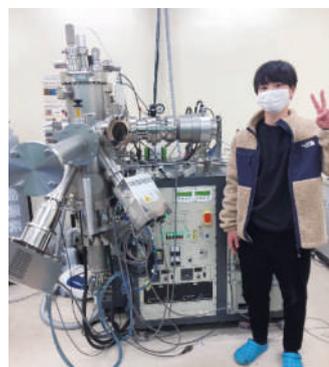
私は本科5年間で専攻科2年間の合わせて7年間で高専で過ごしました。専攻科の2年間は新型コロナウイルスの影響でイベントが少なくあまり思い出は作れませんでした。勉強面では本科より充実していたと感じています。その理由の一つは、特別研究で多くのことを学べたことです。特別研究での研究活動を通して専門分野に関する知識だけではなく、様々な能力を養うことができました。その中でもプレゼンテーション能力と英語力を養えたことはこれからの人生に大きく役立つと思います。

プレゼンテーション能力についてですが、特別研究では単位修得要件として学会発表をする必要があります。学会発表とは、その分野の研究者に対して自分の研究成果を10分程度で発表し、質疑応答を通して内容について議論する場です。そのため、自分の研究成果を論理的かつ簡潔に説明しないとけません。本番では、想定外の質問もありましたが、自分の研究を振り返りながら冷静に回答することができたので、この

経験を通してプレゼンテーション能力を大きく向上できたと思います。

次に、英語力についてです。特別研究で得られた研究成果を指導教員の先生と共同で海外の学会誌へ論文投稿をさせていただきました。この経験を通して論文独特の表現や単語を学ぶことができました。

このように、専攻科での特別研究では他の大学生より早く学会発表などの経験を積むことができます。そのため、大学院によっては入試で専攻科生に推薦制度を設けているところもあり、大学院への進学も有利です。大学院への進学を考えていて、早く経験を積んでおきたいという人は専攻科への進学も考えてみては如何でしょうか。



7年間で成長できたこと

電気情報システム工学専攻2年 尾崎 天地

私は、鹿児島高専の7年間で様々なことを学び経験することができました。高専生活で特に成長できたと感じることは、自分から行動するという、専門科目の知識と研究についてです。

高専の7年間は自分のために使える時間が多く、自分から行動、挑戦してみようと思い、色々な経験をすることができました。個人的にやってよかったことは、アルバイトと海外研修とインターンシップとETロボコンです。初めてアルバイトをしたのが高専1年の夏休みで、飲食店の接客業をしました。その時は注文を間違えたり、お皿を割ったりレジの使い方がなかなか覚えられなかったりで、とても大変で怒られてばかりでした。その後工場バイト、ライブスタッフ、引越越しバイト、郵便局など途中で掛け持ちしながら10箇所くらいで働くことができました。そこでは高専では出会わないような価値観の先輩や社員と話すことができました。また、後輩との接し方やお客様への対応などを学ぶことができました。

専門科目について特に印象に残っている科目は半導体工学についてです。もともと電子回路に対して苦手意識があり、テストでもあまり解けなかったのですが、半導体工学の授業をしっかりと聞くと電子回路のトランジスタの原理がわかり、電子回路がとても面白くなりました。

研究については、専攻科に入学してからは情報工学科の先生の研究室に移りました。そして脳波とVRの研究を行いました。プログラムが実装できずなかなか研究が進まないこともありましたが、諦めずに毎日少しずつ勉強することで成果ができました。そして、夏には学会発表でポスター発表をすることができ、様々な先生からアドバイスを頂き、とても貴重な体験ができました。

このように、高専7年間でたくさんの経験をすることができました。鹿児島高専に在学している皆さんは、残りの学生生活を悔いのないように楽しんでください。



修了にあたって

建設工学専攻2年 瀧 龍平

鹿児島高専での7年間なかで、特に専攻科の2年間は私を大きく成長させてくれました。

専攻科の生活は、授業よりも研究活動に重点を置いており、自主的にコミュニケーションをとることが求められました。特に、専攻科1年生の時は同じ研究室に同級生がいない為、来年から自分が研究室を引っ張って行かないといけないという気持ちから、できる限り教授や先輩とのコミュニケーションをとることを心掛けました。私はコミュニケーションをとることがあまり得意ではなかったのですが、自分の研究に対する理解度を高めることができ、研究の段取りがスムーズに出来るようになったので、やって良かったと思います。辛いことも多かった専攻科生活でしたが、研究室の後輩からのサポートもあり、2年間を乗り越えることができそうで嬉しいです。

私は本科5年生の時から、新規下水汚泥肥料の茶栽培への適応という研究を行ってきました。この研究は通常捨てられる下水汚泥と米糠などのバイオマスを混

ぜた「新しい肥料」＝「新規下水汚泥肥料」を使って茶栽培を行い、既存の肥料との比較や量産化について検討する研究です。簡単に言うと要ら



ないものを混ぜて作った肥料で植物を育てるというものです。この研究を通して農家の方々の大変さや、これからの環境問題に対する考え方などを学ぶことができました。また、この成果を学会で発表し、発表賞を受賞することができました。発表を通してプレゼン能力が向上したことを実感できて嬉しかったです。

研究は大変だと思う場面は多いと思いますが、自分から研究に興味を持って取り組むことで、楽しいと思う瞬間も増えていくのかなと思います。

最後になりますが、これまで支えてくださった先生方や家族に感謝の気持ちを述べさせていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。今後、高専で学んだことを活かして頑張っていきたいです。

贈る言葉

専攻科長 新田 敦司

専攻科修了生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして修了生の保護者の皆様、ご卒業心よりお喜び申し上げます。

鹿児島高専の専攻科2年間はどうか？

専攻科は産業界が求める生産現場などで実践的に問題解決ができ、かつ最先端の技術にも精通した創造力豊かな開発型技術者の育成を目指しています。皆さんは本科より高度な学習や課題解決型科目、特別研究を通して、個々の能力を高められたのではないかと思います。

ここで、専攻科での特別研究及び来年度から始まる九州大学との連携教育プログラムについて簡単に紹介したいと思います。

特別研究は指導教員と共に今まで知らなかった真実を明らかにすることを目的としています。このため研究の成果を学会等で発表することが重要です。本年度は鹿児島高専で日本高専学会 第28回年会講演会(8/31～9/2)開催され多くの専攻科生が研究発表を行いました。

今回の発表で4名の学生が「優秀ポスター賞」を受賞しました。本校専攻科の特別研究の内容とプレゼンテーション能力の高さが証明された結果だと考えています。

次に、来年度から始まる九州大学との連携教育プログラムは専攻科1年時には本校で、2年時は九州大学で主に学びます。すなわち、専攻科に在籍しながら九州大学の講義受講し、最先端の研究を行います。

プログラム修了時には「学士」の学位を九州大学から授与されます。さらに、専攻科の修了証書も授与されます。本プログラムに挑戦してみませんか。

最後に、これまでの専攻科の修了生は大学だけではなく産業界からも高い評価を得ています。これもひとえに修了生の弛まぬ努力の賜物です。皆さんも、先輩方に負けぬよう頑張ってください。

今後のご健闘をお祈りいたします。

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

《機械工学科》

アイスマン株式会社
アサヒビール株式会社
いわさきコーポレーション株式会社
エクセン株式会社
鹿児島空港ビルディング株式会社
カルビー株式会社
株式会社九州タブチ
京セラ株式会社国分工場
キリンビバレッジ株式会社
株式会社しろみず
株式会社大気社
大日精化工業株式会社
株式会社ディスコ
株式会社東京エネシス
東京ガス株式会社
東京ガスネットワーク株式会社
東京都下水道サービス株式会社
トーテックアメニティ株式会社
成田空港給油施設株式会社
日本オーチス・エレベータ株式会社
日本飛行機株式会社
株式会社藤田ワークス
フジテック株式会社
富士電機株式会社
武蔵エンジニアリング株式会社
村田機械株式会社
株式会社メイテックフィールダーズ
株式会社ユー・エム・アイ
リコージャパン株式会社鹿児島支社
(進学) 鹿児島高専専攻科 (5名)
(進学) 鹿児島大学工学部 (3名)
(進学) 熊本大学工学部
(進学) 九州工業大学工学部
(進学) 岐阜大学工学部
(進学) 新潟大学工学部
(進学) 千葉大学工学部 (2名)
(進学) 豊橋技術科学大学 (2名)

《電気電子工学科》

I-PEX株式会社
JNC株式会社 水俣製造所
NECネッツエスアイ株式会社
エクセン株式会社
関西電力株式会社
京セラ株式会社 鹿児島国分工場
京セラ株式会社 隼人工場
株式会社クボタ
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社
株式会社ディスコ 広島事業所
東京ガス株式会社
日東電工株式会社 豊橋事業所
富士電機株式会社 (2名)
株式会社マツダE&T
三菱電機株式会社 名古屋製作所 (2名)
三菱電機ソフトウェア株式会社
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
村田機械株式会社
リニューアブルジャパン株式会社 鹿児島事務所
株式会社日産オートモーティブテクノロジー
日本貨物鉄道株式会社 九州支社
(進学) 鹿児島大学工学部
(進学) 熊本大学工学部 (3名)
(進学) 九州大学工学部 (2名)
(進学) 九州工業大学工学部 (2名)
(進学) 長岡技術科学大学 (4名)
(進学) 鹿児島高専専攻科
(進学) 豊橋技術科学大学

《電子制御工学科》

株式会社 A・R・P
NTT コムエンジニアリング株式会社
TDC ソフト株式会社
いわさきグループ
京セラ株式会社国分工場（3名）
スズキ株式会社
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
株式会社テクノ21グループ
株式会社デンソーテン
東海旅客鉄道株式会社
パナソニック エナジー株式会社
浜松ホトニクス株式会社（2名）
日立情報通信エンジニアリング株式会社
富士電機株式会社
株式会社牧野フライス製作所
三菱電機エンジニアリング株式会社
村田機械株式会社
メターウォーター株式会社
株式会社メンバーズ（4名）
株式会社ユピテル鹿児島（2名）
（進学）鹿児島高専専攻科（5名）
（進学）鹿児島大学工学部（2名）
（進学）九州工業大学情報工学部（2名）
（進学）九州大学工学部
（進学）佐賀大学工学部
（進学）豊橋技術科学大学

《情報工学科》

株式会社 FIXER
株式会社 OEC
アマゾンジャパン合同会社
株式会社アルファシステムズ
コニカミノルタ株式会社
ソフトマックス株式会社
東京ガスネットワーク株式会社
東日本電信電話株式会社
ファナック株式会社
福岡銀行株式会社
富士ソフト株式会社（2名）
マツダ株式会社
三菱電機ソフトウェア株式会社（2名）
株式会社メンバーズ
ユピテル株式会社
リンク情報システム株式会社
（進学）鹿児島高専専攻科（8名）
（進学）鹿児島大学工学部
（進学）九州工業大学情報工学部
（進学）琉球大学工学部
（進学）広島大学理学部
（進学）豊橋技術科学大学（3名）

《都市環境デザイン工学科》

MEC Industry 株式会社
株式会社植村組
株式会社エステム建築事務所
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
エム・エム ブリッジ株式会社
鹿児島県庁
関西電力株式会社
九鉄工業株式会社
コーアツ工業株式会社
サンコーコンサルタント株式会社
株式会社大気社
株式会社大進
大豊建設株式会社
東京水道株式会社
東京電力ホールディングス株式会社
戸田ビルパートナーズ株式会社
西日本高速道路株式会社（3名）
株式会社日本ピーエス
株式会社萩原技研
パソコン技術管理株式会社
（進学）鹿児島高専専攻科（5名）
（進学）鹿児島大学工学部（3名）
（進学）熊本大学工学部（2名）
（進学）九州工業大学工学部
（進学）佐賀大学理工学部
（進学）京都芸術大学芸術学部
（進学）信州大学工学部
（進学）豊橋技術科学大学（2名）
（進学）長岡技術科学大学
（進学）日本大学理工学部（2名）
（各種学校）高知県立林業大学校

《機械・電子システム工学専攻》

ソニーセミコンダクターマニュファクチャリング株式会社
テルモ株式会社
パナソニック株式会社
株式会社バルキー・インフォ・テック
メタウォーター株式会社
株式会社メンバーズ
（進学）九州工業大学大学院生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻
（進学）九州大学大学院 総合理工学府 総合理工学専攻Ⅱ類
（進学）九州大学大学院総合理工学府Ⅰ類 材料電気化学研究室
（進学）東京大学大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻

《電気情報システム工学専攻》

セイコーエプソン株式会社
ソニーセミコンダクターマニュファクチャリング株式会社（2名）
東京NSC
（進学）鹿児島大学大学院
（進学）北陸先端科学技術大学院大学

《建設工学専攻》

株式会社 大林組
ショーボンド建設株式会社（2名）
株式会社 長大
（進学）長岡技術科学大学大学院工学研究科 修士課程環境社会基盤工学分野

卒業生の現在

在校生の皆さんへ

平成30年度 機械工学科卒業 岩崎 愛乃

私は2019年に本校を卒業後、「ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社」という航空機整備を行う会社に入社しました。

特徴として、客室や機体、構造、電装、機装品、訓練サポートなど様々なスキルに特化した専門性の高い部署があります。中でも私の所属する客室整備部では、お客様が直接ご利用になる客室装備品全般の整備を行っています。安全性はもちろん、美観や怪我に繋がらないかを意識する必要があり、よりお客様に近いことから整備の中でもやりがいを感じる仕事です。同期には高専卒もいますが、航空専門学校から入社する人が多いため、最初は知識面で劣る部分があり悩むこともありました。しかし、高専で学んだ機械や電気の基礎知識を活かせば理解できることも多い上に、高専は1年時から実習レポートがある為PCのスキルは他の同期に比べると長けています。

鹿児島高専を卒業し、もうすぐ3年が経ちます。まだまだ未熟で学ぶことばかりではありますが、その中

でも皆さんに伝えたいことは「目標を明確に持つ」ことの大切さです。

皆さんには目標がありますか？私は、小さいころから航空整備士になるという目標を持っていました。

その目標を実現するために高専に入学し、4年時にはインターンシップに参加。その後、就活を経て入社することが出来ました。明確な目標があるとそれに向けたプロセスや、やるべきことが見えてきます。やりたい事が見つからないという方は、5年間で様々な勉強や経験をする中で、得意なもの、好きな事を少しずつ見つけて下さい。そして、物事を柔軟に捉えたり、選択肢を多く持つことも大切だと思います。色々な選択肢を見つけ、後悔しない道を選んでください。

最後に、最も大切なのは5年間を楽しむことです。高専は、部活やバイト、応援団など色々な事が経験できます。時間が沢山ある今のうちに様々なことに挑戦し、高専での生活を充実させて下さい。



近況報告

令和2年度 電気電子工学科卒業 中島 佑典

初めまして。卒業生の中島佑典です。株式会社安川電機に就職し、現在は愛知県でフィールドエンジニアとして産業ロボットのメンテナンスをしています。簡単に言いますと、ロボットを購入していただいたお客様により長く使っていただくためのサポートをする仕事です。

仕事内容はさておき、就職して2年、在学中の自分に伝えたいことを共有しようと思います。

はじめに、高専卒業後、進学ではなく就職して良かった点は、入社してから大学院を卒業した4、5歳上の方と同期として高専卒業の段階で関わっていただけることです。経験、考え方、知識、話し方、立ち振る舞い、余裕、全てで自分だけが劣っていると感じた時、高専5年間、同じメンバーのぬるま湯に浸かっていた私に、社会に出たという実感を強烈に与えました。しかし、これが人として成長するための素晴らしい環境だと思います。4、5年先のお手本、目標が常に周りにいる状態です。追いつくのは難しいですが、見様見真似で自分自身何かが

急激にレベルアップするのを感じました。表現しづらいのですが、落ち着きが出るといった感じです。大学に進学していたら、この歳では得られなかったものかなと思います。

次に、就職したら責任が増えます。在学中も様々な方から自立や責任について大変だと話を伺ってしま

したが、これは想像以上でした。自分のことは自分でやらなければ置いていかれ、本当に見捨てられます。皆、自分のことで精一杯だからです。これがお金を稼ぐということかと思いきや知らされました。在学中にできる対策はありません。想像している責任の遥か上をいくからです。

最後に、就職先で大切なのは、お給料、働きがい、ではなく、人間関係です。なかにはとんでもなく近寄り難しい方もいます。コミュニケーション能力は、ものすごく大切です。この力は身だしなみ、言葉遣い、笑顔など、総合的な印象のことです。これを上げるとはるかに生きやすくなります。お手本は周りにいます。



社会人になって感じたこと

平成31年度 電子制御工学科卒業 横峯 智野

私は、2020年に電子制御工学科を卒業しました。現在は、日東電工という会社で製造技術者として働いています。日東電工は、ディスプレイに使われている偏光板やHDDに使用されている磁気ヘッドを製造しています。いい会社だと思うので、是非インターンシップなどに参加することをお勧めします。

さて、私は高専を卒業して現在社会人ですが、社会人になって感じたことを2つほどお伝えしようと思います。

1つ目は、なにか趣味を持ちましょう。社会人の平日は淡々としたものです。定時で帰ることができても、その後することがなければ味気ない一日であったと感じてしまいます。勉強、スポーツ、読書、何でもいいと思います。今後もずっと続けていきたいと思えるものを学生のうちに見つけておくと、社会人になってからも人生に彩りを与えてくれると思います。2つ目は、意外と勉強をしたくなるということです。私は学生時代、成績はいい方で、社会人になって勉強しとけばよ

かったと思うことはないだろうと思いながら卒業しました。しかし、現実には真逆でした。「学生時代もっと深い部分まで勉強しておくべきだった」と「別の分野まで勉強しとけばよかった」と思っています。ただ、ここで「学生のうちに勉強しておけ!」とお伝えしたいわけではないです。社会人になったら誰でもそうなりえることを心に留めておいてほしいです。学生の時に勉強を心おきなくできる環境を素晴らしく感じる学生なんて存在しないと思います。勉強をしたくなる時は必ず来ます。その時に拒絶反応が出ない程度に勉強していれば、学生時代は十分だと思います。

最後になりますが、高専で出会ったクラスメイトは一生ものです。卒業すればバラバラになってしましますが、こまめに連絡を取りあって疎遠にならないようにしてほしいと思います。



在校生の皆さんへ

平成30年度 電気情報システム工学専攻修了
(情報工学科出身) 神田 将吾

「薩摩隼人の若き火の…」の冒頭の歌詞を聞いて鹿児島高専に入学してから、約11年が経ちました。私は情報工学科を卒業して専攻科を修了した後に、航空大学校に進学しました。昨年10月に航空大学校を卒業し、航空会社へ入社が決まりました。高専の7年間と、その後の4年間は、充実した日々を過ごすことができました。先輩として在校生の皆様に伝えたいことがあります。それは「自分の軸を見つけること」と「人との関わりを大切にすること」です。

私の高専生活では、サッカー部で全国高専大会優勝の目標に向かってトレーニングに没頭した日々を送り、学業では学力向上や研究課題を追求し、文武両道を掲げて生活してきました。このなかで私は、「目標に向かいひたむきに努力を継続すること」が私の軸であると実感しました。そこで人生の目標は何かと考えると、一度の人生で後悔したくないと考え、幼い頃から憧れていたパイロットになりたいと強く思うようになりました。

た。どんなことでも目標などの軸は、人生の岐路でみなさんの支えになります。

航空大学校に入学後は、新たな環境で新しい分野の勉強をするとき、高専で身につけた自ら進んで学ぶ姿勢をもとに、同じ志を持つ仲間と共に切磋琢磨してきたことで卒業することができました。私が今まで好きなことができたのも、支えてくれた両親やご指導いただいた先生や教官方、仲間たちや先輩方、後輩の皆さん、関係者の方々全員のおかげです。困った私を幾度となく助けていただいたことに感謝しかありません。どんな職業に就くにしても、人との関わり合いと支え合いによって成り立ちます。あなたが困ったときに、ふとした出会いによって、誰かが手を差し伸べてくれる場面が必ずあると思います。

これから鹿児島高専を卒業し社会人となるなかで、自分の軸を見つけて、人との関わりを大切にしながら、これからのみなさんの輝かしい未来に向けて大きく力強く羽ばたいてください。



技術士のすすめ

平成25年度 土木工学科卒業 友原 晃太

「技術士資格を取得しました！」 恩師である山田先生に現況報告をしたことをきっかけに、技術士資格を紹介してほしいとのご要望を承り、今回『高専だより』に執筆させていただき運びとなりました。在校時はあまり真面目な学生ではなく、このような依頼を頂く機会がほとんどなかったため、執筆依頼を受けて技術士が高く評価されていることを改めて実感しました。

改めまして、私は平成25年度に最後の土木工学科生（現：都市環境デザイン工学科）として本科を卒業した友原と申します。現在は、企業内技術士として、橋梁メーカーの横河ブリッジという会社で、主に国交省が推進するi-Constructionへの対応と、社内技術部門のDX化推進の取り組みを行っています。

技術士については、昨年度初めて受験し無事合格しました。初めてと書きましたが、高専在学中に受験した第一次試験（技術士補）から9年かけて、ようやく取得できました。今回は、この技術士がどのような資格なのかについて簡単にご紹介させていただきます。

技術士とは？

皆さんは橋を渡るとき、「この橋は落ちるかもしれない」

というリスクを意識して渡ることではないと思います。それは、技術者が国民から信頼されているからです。この信頼を保持するための、資質と能力の証明が技術士だと考えています。（個人の見解です。）

技術士になるには？

技術士になるためには、第二次試験に合格する必要があります。受験要件は、第一次試験合格後に修習技術者として一定の実務経験が必要になります。この第一次試験の試験内容は、大学卒業程度とありますが、皆さんの知識レベルで十分合格可能です。年齢制限はないので積極的に受験しましょう。

技術士取得後は？

技術士取得はゴールではありません。技術は日進月歩ですから、常に研鑽しないとイケません。また、公益を確保するために、高い倫理観と社会環境変化への対応も必要です。私自身も技術士取得はスタートラインと考え、今後も研鑽を積み世の中に貢献していきたいと考えています。

最後に

技術士に求められる資質は、社会インフラを支える技術者にとって重要な能力です。まずは、第一次試験を突破し、修習技術者として研鑽を積み、技術士取得に向けて頑張ってください。



知識と経験の蓄積

平成28年度 機械・電子システム工学専攻修了
外蘭 直樹

私は2017年3月に専攻科機械・電気システム工学専攻を修了し、広島県にある半導体製造装置メーカー「株式会社ディスコ」で技術者として働いています。半導体は、今や電気を使う機器の殆どに使われる部品で、その需要も年々拡大し続けています。ディスコは半導体の切断、研削、研磨装置のトップメーカーで、生産が追いつかないほど忙しい状況です。私は、より効率良く製品を作る為の生産設備の開発やメンテナンスの仕事をしています。生産設備の開発は、生産ラインに応じて一品一様の装置を作ることになる為、毎回イチからの勉強で大変ですが、そこが面白さでもあります。常に新しい仕事に対峙しなければならないので、飽きることがありません。

開発の仕事は、常に新しいものを生み出す力が求められます。その為、広い知識とその知識を組み合わせるアイデアが非常に重要になってきます。一つの課題に対して、より多くの情報から答えを選択できるエンジニアの方が、良いものを生み出す可能性が高いこ

とは明らかです。私は高専では制御や電気、情報といった工学分野全般についても広く触れる機会がありました。今でも



頭の隅にある、高専で学んだ知識が、多くのアイデアを生み出すのに役立っています。

また、スムーズに仕事を進める為に大切なのが信頼関係です。仲の良いチームほど、より高いアウトプットを出すことが出来ます。コミュニケーションを取る上で、私は共感できる話題が信頼関係構築に欠かせないと実感しています。高専在学中の学校生活、趣味、課外活動、アルバイト、遊びの話題は現在でも話のネタになります。社会人になってからでは経験できない事は沢山あります。私生活全てにおいて、一つでも多くのことに興味を持ち、挑戦してみてください。心から腹を割って話せる仲間に出会い、多くの信頼関係を築ききっかけになる筈です。

高専は、大学の受験勉強に費やす時間をより専門性の高い知識や新しい経験の蓄積に打ち込むことに使えるのが強みだと思います。この貴重な時間を有効に使い、できるだけ多くのことを吸収して下さい。知識と経験は人生の武器になります。

高専生の強み

令和2年度 電気情報システム工学修了
長崎 玲

最近、「〇〇さん、お世話になります。××の件についてお尋ねしたいことがありまして～」というメール文面を違和感なく書けるようになったと感じています。私は2年ほど前まで、専攻科、電気情報システム工学専攻に所属していた長崎です。現在は、写真に写っている車両を生産、開発している自動車メーカーにて、開発業務を行っています。私自身、社会人となり早くも2年が経ちました。正直、社会人になってからの時間の流れは学生時代に想像していたよりも速く驚いています。そんな社会人2年生の私からアドバイスをと思ったのですが、自分自身何も言えることもなく…、諦めました。

何か皆さんの参考になって原稿で書ける内容を…と思ひまして、開発現場における高専生の評価について書きたいと思ひます（私見も入りますので、あくまでも参考情報です）。

高専生、専攻科生についてですが、一つの業務に對

する実行力が高いと評価されているらしいです。皆さん、PDCAについて聞かれたことがあるのではないかと思います。P(計画)、D(実行)、C(評価)、A(改善)

の4つのSTEPのうち高専生はP(計画)、D(実行)の能力が高く、強みとして挙げられます。この評価は高専生の納期に対する意識の高さからくるものではないかと私は思っています。高専では、「納期に遅れる＝単位を失う」という環境になっており、納期を重視する考えが自然と身につきます。納期に対する意識は、業務を進捗させるうえでとても重要になります。私が行っている開発業務は各領域に締め切りが存在し、納期遅れは開発コストの増大、会社の損失につながります。レポート、論文は難しく辛い思い出しかありませんが、皆さん頑張ってください。

取り留めのない話となり、申し訳ありません。今回の話で、皆さん高専生、専攻科生の強みを知り、その中で、自分自身の強みを考えるきっかけとなれば幸いです。



社会人になった現在

令和3年度 建設工学専攻修了 廣津 晴樹

私は令和3年度に建設工学専攻を修了しました。現在は情報通信インフラ関係の仕事に就職し、日々勉強しながら、楽しく過ごしています。そのなかで、私が社会人になってから感じたことを2点お話しさせていただきます。

1つ目は、学生の頃より勉強時間が増えていることです。これは当たり前のことですが、社会人1年目になって慣れない環境に身を置いて、今まで聞いたことも考えたこともない仕事のやり方やその意味を勉強し、また、多くの業務をこれから相手にするための資格の勉強もしています。ここで学生の皆さんにアドバイスできることは、できるだけ学生の頃に自身に最も身につくやすい勉強法を把握することです。そしたら業務に追われ、時間がない時でも自分の身を助けるために勉強ができます。

2つ目はコミュニケーションが非常に重要になることです。これから社会人になり、職場で仕事を学び、社外と折衝し、数多くの業務をこなしていくには、自身

のコミュニケーション能力が重要になってきます。かく言う私もこれは得意なほうではありませんが、学生時代に先生方や友人、そして志学寮に6年半いたので、顔見知りになった食堂や寮務係の方々とは会えばひたすら話していました。皆さんも是非試してみてください。

以上、私が本校を卒業し、社会人になってから感じたことでした。これらの経験やアドバイスが、卒業後の皆さんの何か糧になれば大変うれしく思います。皆さんの今後の活躍を祈念し、メッセージとさせていただきます。



教務だより

教務だより

教務主事 松田 信彦

こんにちは。教務関連の、この一年の特に大きな出来事についてお話ししたいと思います。

まず、なんといっても今年度最大の目玉は、1年生が混合学級になったということです。2年生以上の保護者には、まだご存じない方もいらっしゃるかもしれません。これまでは合格した時の学科でそのまま1年生のクラスを編成し、同じクラスで5年間過ごしておりました。しかし、この春に入学した学生は、1年間は混合クラスとなり、1クラスに5学科の学生がそれぞれ8人ずつの40人編成となっております。また、これまではクラスの呼び方も機械工学科1年、電気電子工学科1年…というようになっておりましたが、今年の1年生は1年1組、1年2組…となっております。



また、女子学生も今年は48人と、これまでになく多く入学してくれました（昨年は34人でした）。しかし、やはり学科によって人数の差が多く、多い学科では定員の半数以上が女子学生というところもありますが、少ないところだと3人しかいない学科もあります。従来のクラス編成ですと、女子学生が3人のクラスは、5年間その3人で過ごさなければなりませんでしたが、混合クラスにすることで女子学生の数も均等になるように編成しており、今年は何のクラスも9～10人の女子学生がいるという状況となっております。

さて、混合クラスにしたことで、他にも大きく変わったことがあります。まずは、この1年生からカリキュラムが大きく変わっております。もちろん、混合クラスとは関係なく、現在の技術者教育の流れに合わせて、古いカリキュラムを一新していくことが主な目的ですが、そのタイミングで混合クラスにしているため、混

合クラスならではのカリキュラムを作りました。その一つが、後期から始まった「工学基礎実習」です。

従来からも1年生の時から、その学科独自の実験実習がありましたが、当然、機械工学科の学生は機械の実習、都市環境デザイン工学科の学生はその分野の実習となっております。しかし、この「工学基礎実習」は、5学科の内容の実習を、すべての学生が体験するものです。

つまり、機械工学科の学生でも、都市環境工学科の実習を体験し、情報工学科の学生でも機械工学科の実習を体験するという授業です。後期15週の授業の中で、各学科3時間ずつの実習を準備し、ローテーションで回していきます。当然、クラスの中には、5学科の学生が混在していますので、すべての学科の学生が、すべての学科の実習を体験することになります。

これにより、学生が自分の専門分野や隣接分野だけでなく、幅広い視野でエンジニアリングを勉強し、広く工学の分野への興味を持つことを期待しています。

さて、そのほかの出来事としては、やはりここ数年、コロナ禍で授業についても少なからず影響が出ています。残念ながら、今年も5月後半と7月後半で、2度の休校があり、その間は遠隔授業を実施しました。しかし、今年で3年目ということもあり、3年前に初めて遠隔授業を実施したときと比べると、教員も学生もうまく適応しているのがうかがえました。

また、遠隔授業で用いる moodle というシステムや、マイクロソフトの Teams などの ICT ツールを、通常の対面授業のときにも積極的に活用する教員も増えてきています。

学生の方も、遠隔授業がはじまった当初は、何をどうやっていいのか分からず、結果、サボったり、いい加減に受講している学生もいましたが、今年はそういう学生も少なくなっているように感じました。遠隔授業も、オンデマンド方式ではなく、Teams を活用したリアルタイムでの授業も増え、学生も規則正しい生活リズムを保ちやすくなったのではないのでしょうか。

来年度は、2年生で新規科目の「リベラルアーツⅠ」が開講され、ジェネリックスキルの育成を強化します。また、企業や大学とも連携して、半導体人材育成やアントレプレナーシップ教育など、どんどん新しい分野にもチャレンジしていく年にしていきます。

総務企画だより

広報センター、キャリア支援室

総務企画主事 岸田 一也

(1) はじめに

総務企画委員会は、学校の様々な評価に関する対応のほか、複数の業務を行っております。今回は、その中から広報センター、キャリア支援の業務の成果について紹介したいと思います。

(2) 広報センター

広報センターは、鹿児島高専の入試広報を除いた広報の業務を行っています。ホームページの管理、高専だよりの制作、学校要覧の制作等がありますが、今年度は新たな取り組みとして、(鹿児島市)市電の窓吊り広告を2回出しました。図1の広告は、受験生獲得に向けて10月末から11月にかけて掲載した2回目の広告となります。この広告を見て、多くの中学生が受験してくれることを期待しています。



図1 (鹿児島市)市電の窓吊り広告第2弾

(3) キャリア支援室

キャリア支援室長 今村成明

令和4年11月19日土曜日に、午前44社、午後44社の計88社の企業に参加頂き、本科4年生と専攻科1年生を対象とした「鹿児島高専生のための合同企業セミナー」を開催しました。新型コロナウイルスの感染状況が気になるころでしたが、3年ぶりの対面開催が実現できました。

セミナーに参加した学生達は、メモを取りながら説明を真剣に聞いており、就職活動に向けて良い機会になったと思います(図2)。実施後のアンケートにおいても、96%の学生が「大変満足」、「満足」と回答しており、充実したセミナーとなったようです。本セミナーで得た知識を家族とも共有し、進路の決定に役立ててもらえればと考えております。

令和4年度の4年生、専攻科1年生向けのキャリア支援プログラムですが、図3のように充実したものになりました。今後も鹿児島高専版のキャリア支援活動を充実させていきたいと考えています。



図2 合同企業セミナーの様子

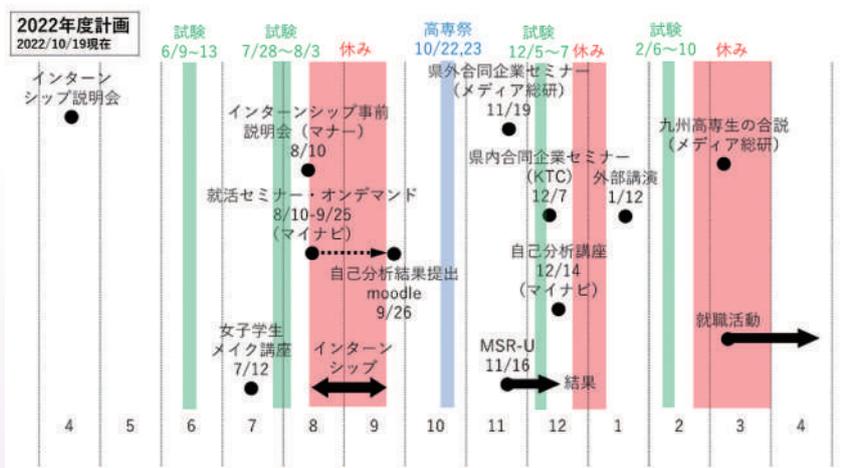


図3 令和4年度 就職進学活動等におけるキャリア支援計画



学生だより

笑顔の大切さ

学生主事 北蘭 裕一

学生の個性が輝き、これまで以上に学内に素敵な笑顔が増えていくことを願って『Smile OK!』というポスターを、教室をはじめとする掲示板や廊下等の学内にも掲示させてもらっています。これまで以上に、少しだけでも笑顔を気にしてもらいたい、スマイルを心掛けてもらいたいからです。これはもちろん学生だけではなく、教職員の笑顔も増やして欲しいなという願いでもあります。

では、教職員の目から見て、学生の笑顔はどうでしょう？休み時間はもちろん、SHR 中や授業中に学生の笑顔が溢れていましたか？

教職員の声掛けや振舞い、そして明るい笑顔があると、学生もにっこり笑顔になれますよ。明るい雰囲気により前向きになった学生の授業への意欲は向上し、成績アップにも繋がってくるのではないのでしょうか。

また、学生から見て、教職員の笑顔は増えていましたか？笑いのある授業や実験でしたか？みんなの笑顔で先生方もきっと笑顔になれます。

是非、学校全体でポジティブな雰囲気を作っていきましょう。ポジティブで明るい空間が学内に増えると、益々明るく楽しい学校になりますよ。

デール・カーネギーの著書『人を動かす』の中に次のようなフレーズがあります。

「笑顔は1ドルの元手もいらないが、100万ドルの価値を生み出す。」

なるほどな、と感じるフレーズです。このフレーズの通り、笑顔には不思議なパワーがあります。

また、アメリカの心理学者であり哲学者でもあるウィリアム・ジェイムズは次のように言っています。

“It’s not laughing because it’s fun, it’s fun because it’s laughing.” (楽しいから笑うのではない、笑うから楽しいのだ。)



多くの人々は、楽しいことや嬉しいことがあるから、人は笑うのだと思っています。しかし、実際は逆で、笑うからこそ、楽しい気持ちや嬉しい気持ちになるのです。笑顔になると、幸せホルモンと呼ばれるセロトニンが分泌されることが科学的にも証明されており、この幸せホルモンたるセロトニンが分泌されると、幸福感や前向きな気持ちを感じる事が出来ます。

つまり、楽しいことや嬉しいことがないのなら、いっその事、先に笑顔を作って楽しい気分になる方が、毎日を気分よく前向きに過ごせますよね。

笑顔あふれるキャンパスを、『Smile OK!』みんなの力で作り出していきましょう。

最後に、今年度の後期より、正門付近や学生課前のプランター配置場所を変更しました。そして、学生会のメンバーが毎朝花の水撒きを心掛けてくれています。学生・教職員はもちろん、学校に来られたお客様が「綺麗な学校だな」と思ってもらえるよう、学生の笑顔のような明るい花を維持していければと考えております。

元気な挨拶と明るい笑顔の花が咲き誇る鹿児島高専を共に創っていきましょう！



志学寮だより

今年の活動を振り返って

寮務主事 室屋 光宏

この3月で主事としての任務を終えます。今回は共に学寮運営に携わってきた主事補の皆さんにも執筆者として加わっていただき、活動を振り返ります。

学寮イベント

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、学寮のイベントもその影響を受けました。「留学生パーティー」については留学生の来日が遅れ11月に開催されました。幸いに新型コロナの感染が少ない時期で、集合形式でパーティーが開催されました。今年では日本の文化を体験するというテーマで、日本の伝統文化を通じたゲームなどで留学生との交流を深めていました。一方、「七夕パーティー」は感染が拡大していた時期での開催となりましたので、集合・飲食せず、学寮放送設備を利用して開催しました。寮生会や文化委員会などがパーソナリティとなり工夫を凝らしたトークを展開して七夕の夜を盛り上げていました。短冊の願いも「コロナが収まりますように」「コロナが収まりみんなで〇〇ができるように」など早期に日常が戻ることを願う内容が昨年より多く感じられました。寮生同様私も、新型コロナウイルス感染症を気にせず学寮運営をはじめ、寮生のイベントが開催できる日が早く来ることを切に願うばかりです。



生活・衛生

生活・衛生面での一番の話題は、やはり新型コロナウイルスの感染予防です。具体的には、密状態回避のため、摂食時間や入浴時間を学年や部活動毎に分ける感染予防対策を継続しています。さらに、5月から寮食堂において、各テーブルにパーティションを設置しました。合わせて黙食の徹底を図るため、寮務委員会による食事の巡回も行いました。それらの効果を測ることは難しいですが、学生寮を発端とする大きな感染拡大は今のところ防ぐことが出来ていると思われま

す。他には、学生のゴミ分別が悪くなっており、職員がその対応に追われるという現状があります。基本的には、ゴミ分別に対する個々人の意識を高めることが大事ですが、ゴミ出し日の設定、分別状況のチェック体制確立などの方策を導入する必要があるかもしれません。

また、生活面では、自転車の登録・管理を行っています。寮生の大部分が自転車を保有しておりますが、駐輪場の不足により、ここからあふれた自転車が寮舎周辺の庭に置かざるを得ない状況にあります。快適に寮生活を送るためにもこれら施設の改善が必要であり、今後の寮舎改修に合わせて駐輪場も拡充されることが望まれます。

新入生集合自習

4月～5月に新入寮生の1年生を対象にした学習指導です。入寮後早い段階から勉強する習慣を定着し、学生同士共に学習意欲を高めるため、前半の完全自習の時間帯に寮多目的ホールにクラスごとに集合し実施しました。

学寮チュートリアル

低学年を対象にした定期試験対策の勉強会です。試験時間割発表から試験開始前日まで平日の完全自習の時間帯に多目的ホールで実施され、希望者のみ参加して実施するものです。専攻科生及び5年生がチューターとして常駐し、参加者のわからない問題等を自由に質問できるという体制で実施しました。

新型コロナウイルス感染症対応

これまでの項目で何度も触れられていますが、この2年は新型コロナウイルス感染症の対応に尽きます。とにかくこれには最初から最後まで翻弄され続けました。食事や点呼など学寮の基本的な生活スタイルの変更はもとより、学寮行事の中止や規模縮小なども余儀なくされました。また、複数回の閉寮にも追い込まれるなど、保護者の皆様にもご心配、ご迷惑をおかけしました。変異株の出現で、感染の波は繰り返されていますが、国産治療薬の承認など明るい兆しも見られるようになりました。コロナ禍前を知る寮生が減り続けている中、学寮本来の姿を伝え継ぐためにもこの状況が早く回復することを願うばかりです。

専攻科だより

専攻科のフィールドワーク

建設工学専攻 専攻長 安井 賢太郎

専攻科では、「環境創造プロジェクト」という課題解決型学習（PBL）に取り組んでいます。これは機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、及び建設工学専攻の3専攻の学生が分野を横断したチームを編成して、地域における課題の発掘や課題解決に向けた提案や器具・装置の試作を行い、これらの成果をポスターに纏めて発表するという内容です。

本年度は、本校と包括的連携協定を締結している長島町の「農業の省力化」をテーマとして、4月下旬に農作業における課題発掘のための現地調査を2日間実施しました。

----- 《調査スケジュール》 -----

◇1日目

- ・JA 鹿児島いずみ 長島事業所 馬鈴薯選果場
集荷されたじゃがいもの選別・出荷工程を調査

- ・エグチベジフル株式会社

じゃがいも植付け・収穫に使用する農業機械を調査

◇2日目

- ・じゃがいも収穫作業を通した課題を調査

1日目は、JA 鹿児島島の選果場を訪問し、運び込まれたじゃがいもがサイズ毎に仕分けされ、箱詰めされるまでの工程を見学しました（図1）。目視選別（腐敗や規格外）以外の工程は全て機械が行っていることに驚きました。長島町のじゃがいもは「赤土バレイショ」として春先からスーパーに並びます。特に在宅ワークが多くなり、食品をまとめ買いすることの多かった近年では、日持ちする野菜としてじゃがいもの需要が高くなっているようです。

2日目は、圃場でじゃがいもの収穫作業をしました（図

3）。機械によるじゃがいもの掘り起こしから、目視選別、カゴ入れ、トラック積み込み作業までの全ての作業を体験しました。特にじゃがいもで満たされたカゴをトラック荷台に3段ずつ積み上げる作業は重労働でした。体力に自信のある学生は、楽々とできたかもしれませんが、これらの作業を、年を重ねてからも継続するためには、工学のものづくり力が必要である、と多くの学生が実感したのではないかと思います。また、図3から伝わると良いのですが、圃場は海に面していて、作業当日は海の青と赤土の赤のコントラストが綺麗でした。長島町は島全体が海に囲まれており、潮風と共にミネラル分が供給された赤土、温暖な気候が美味しいじゃがいもを育てているようです。なお、収穫後の「赤土バレイショ」を分けていただき、大変美味しく頂きました。

本調査を通して、長島町の特産品であるじゃがいもの収穫から選別・出荷までの作業について理解を深めることができました。学生がこれら作業における課題を発掘して、工学的なアプローチから地域農業の発展に繋がる提案を行ってくれるものと期待しています。

最後に、本研修は長島町役場農政課、JA 鹿児島いずみ、エグチベジフル株式会社のご協力のもと、実施することができました。関係者の皆様にお礼申し上げます。

皆さん、美しい景色と美味しい魚など魅力がいっぱいの長島町へ是非行ってみてください。



図1 じゃがいも選果場の調査



図2 農業機械の調査



図3 収穫作業を通した課題調査



国際交流だより

密な青春を目指して

国際交流センター長 徳永 仁夫

国際交流センターでは、2019年度よりグローバルエンジニア育成事業（基礎力養成コース）を展開しております。新型コロナの影響は甚大で、密を気にしながら活動する状況が続きますが、新しいグローバルな取組も動き始めています。グローバル活動の推進力となっている学生の活躍を中心に、2022年度に新たに取組んだ活動を紹介します。

JSTS2022 にてグローバルクラブが活躍

令和4年度は高専機構主催の“Japan Seminar on Technology for Sustainability 2022 (JSTS2022)”を鹿児島高専が担当しました。JSTS2022 運営の中心として学生有志、グローバルクラブ（以下、GC）メンバーが活躍しました。

GCの活動は、外部からも高い評価を受けており、日本高専学会活動奨励特別賞も受賞しました。GCの活動に興味を持った学生は、国際交流センター（学生課内）にお越しください。



NTI 高校（スウェーデン）コラボレーション with GC

この原稿を書いている時点では予定ですが、令和5年1月16日から24日まで、NTI 高校（スウェーデン）から9名の学生と3名の先生を鹿児島高専にお迎えし、国際交流（コラボレーション）を実施します。

新たな取組として、学生（GC）による企画・運営に取り組んでいます。鹿児島高専の学生にとっても有意義な交流となるように、適度なディスタンスは保ちつつ、侃々諤々、魅力的なアクティビティを企画中です。



今回の主な交流企画として、

- 授業・実習への参加、研究室ツアー
- 企業テーマに基づくPBL（チャットアプリ作成）

- 工場見学
- 文化研修旅行
- 鹿児島市科学館でのワークショップなどがあります。

さらに、放課後はバドミントンによる交流、ボーリング大会、ゲーム等による学生同士のアクティビティを企画しています。

放課後英会話

目的は、英語によるコミュニケーションに関する意欲とスキルの獲得です。

レッスンは1回30分（対面式）で、英語ネイティブ講師1名と学生4名程度のグループレッスンを行います。毎回1つの身近な話題を選定し（例えば、最新のロボット技術、好きな映画など）、英語でディスカッションを行います。

学生たちは、自分の考えをどのように表現するのか、適当な単語を知らないときにどのようにして伝えるのか、など「表現する、伝える」ための実践的な知識やテクニックを学んでいます。

まだ参加していないあなた！せっかくの機会です。ぜひ一緒に自己研鑽しましょう。



グローバルコミュニケーション導入教育

グローバルエンジニア育成に向けた最初のステップとして、1年生を対象に、英語によるコミュニケーションの重要性を認識させるとともに、グループワークやディスカッションなどの実践を通してコミュニケーション能力の向上を図るセミナーを実施しました。

オンライン形式で、6人程度の学生で構成されたグループを、1名の英語ネイティブ講師が担当しました。



地域共同テクノセンターだより

地域共同テクノセンターの活動

地域共同テクノセンター長 武田 和夫

地域共同テクノセンターは鹿児島高専と地域企業・自治体との連携、共同研究の推進、知的財産に関するマネジメント等を業務としています。運営はセンター長の武田、副センター長の前園と瀬戸山、各科の運営委員、総務課企画係で行っています。地域共同テクノセンターは専攻科棟と接続していて、4階建の専攻科棟の東側の2階建の建屋が地域共同テクノセンターとなっています。

今年は新型コロナウイルスの影響を受けて3年目になりますが、昨年までとは異なり、withコロナ、afterコロナを見据えた動きができるようになってきました。今年の地域共同テクノセンターの取り組みの中から学生に関係する2つの活動を取り上げて報告します。

1. 地方創生とキャリア教育

昨年度の鹿児島高専生の就職希望者で県内に就職した割合は3割でした。今回は少し多めでしたが、この数字は例年2割程です。

県外企業に対して劣らない優良企業は県内にもありますが、それを学生が知る機会はほとんど無く、学生にとって「知らない企業」は「存在しない企業」と同じで就職先の選択肢に入ることはありません。また、鹿児島で働く姿をなかなかイメージできないのも県内就職率が低い原因の一つです。

地域共同テクノセンターでは「鹿児島で働くこと」「地域の現状と課題そして未来」「鹿児島の企業の活動」について知る機会を、キャリア教育として各学年に特活の時間等で提供しています。1年生に向けては地域企業による特別講義、2年生へは行政機関による特別講義、3年生は企業見学会、4年生は企業研究会(合同説明会)がそれぞれ感染症対策を取りながら対面で実施されました(写真①、写真②)。

これらの催しは主に鹿児島で働く本校のOB/OGが講師であり、「地元で働くこと」「社会で働くこと」について考える機会となります。鹿児島の企業や社会人生活を知ること、県外と県内の就職のメリット・デメリットを知ることができ、もし県外就職しても、将来に鹿児島に戻ってくる(Uターン)ときの手がかりになると信じています。



①特別講義の様子



②企業見学の様子



③ロゴマーク作成会議



KTC 会員企業一覧

2. 鹿児島高専テクノクラブ(KTC)の活動

KTCは鹿児島高専の産学官連携組織です。地域との交流推進により教育・研究成果を地域に還元することを目標の一つに掲げている鹿児島高専と、南九州地域の有志企業と、自治体等とが連携する産学官交流組織です。教員との共同研究を通じて学生と研究活動を行ったり、毎年の優秀な卒業研究や特別研究を表彰したりしています。また、KTC会員企業は高専生のインターンシップ受入れや採用活動を積極的に行っていて、鹿児島高専生にとっては、“味方”の企業です。

KTCでは学生課前や厚生会館内にデジタルサイネージを設置しています。デジタルサイネージでは、会員企業から提供された動画を日替わりで毎日流しています。またKTCのホームページでは会員企業の紹介ページを随時更新しています。これらは学生の皆さんに「知ってもらいたい」という各企業の意思の表れです。せっかくだから、大都市の企業の調査と並行して、地域の企業のことも知り、そのうえで将来のことを検討してみたいかがでしょうか。

今年はKTCが組織として使う「ロゴマーク」を学生と一緒に作ることになりました。有志の学生とKTCとの間で毎月の打ち合わせが行われ(写真③)、この文章を書いている時点では、“完成”に近づいてきています。完成形は今年度末か次年度はじめには発表できるものと思っています。KTCと学生とが協力して完成させるロゴマークを楽しみにしてください。

学生何でも相談室だより

学生何でも相談室だより

学生何でも相談室室長（一般教育科・物理）
野澤 宏大

昨年度は、匿名の投稿フォーム「学生何でも相談&質問&意見箱」（以下「何でも箱」と略）を設置した話を書きました。今年度は、その何でも箱への投稿から始まったお話を紹介します。

令和3年12月3日、何でも箱にとある意見が寄せられました。その内容は、「暖かいお弁当を食べたいので、厚生会館に電子レンジを複数台設置してほしい。ゆくゆくは他の建物にも増設を」というものでした。この意見に対する相談室長としての当初のオフィシャルな回答は、「厚生会館の電力の容量や、管理の問題等から難しい」というものとなりました。しかしこの回答、物理教員としては非常に引かれるものがありました。そして、物理学実験の時間の合間に投稿者本人（投稿時に名乗って来ていました）と意見交換をしていくうちに、以下のような結論に達しました。

「自分で電力を作り、設置場所を学生何でも相談室前にすれば、電力と管理の問題は解決可能」
かくして回答とは真逆の方向に舵を切り、令和4年1月に設置計画は静かに動き出したのでした。

幸いなことに、最近は電子レンジも動かせるような高出力かつ大容量のポータブル電源が世に出回っています。しかも太陽光発電にも対応しており、安全面・管理・大きさ・費用のすべての点で、自作するよりメリットが大きいです。問題点は、リアルタイムでデータを記録するためのログを取り付けにくい、という点です。しかしこれは、物理教員という職業上生じる問題です。利用する一般の学生の立場なら、誰も気にも留めません。最後に太陽光発電用のソーラーパネルですが、これは地域共同テクノセンターのものを、武田センター長の許可をもらって使用しています。ソーラーパネルが倉庫に眠っていることなど、おそらく高専内でも私しか知らなかったと思います。

全ての物品が揃い、春休み期間の試験運用を経て、令和4年4月から学生何でも相談室前（女子学生交流スペース）にて、電子レンジの本格運用がスタートしました（写真1）。出力2000Wまで対応できるポータブル電源を2台準備し、それらを100W型ソーラーパネル7枚（4枚+3枚）で充電しています。それぞれ、電子レンジ（消費電力最大1200W）とオープンレンジ（消

費電力最大1350W）を運用することになります。数字だけを見ると、発電電力700Wに対して明らかに消費電力が過多となっています。しかし、使用するのはバッテリーに蓄えられた電力ですので、あまり問題はありません。電力は全て太陽光から作り、作った本人である私が学生用に使うと決めています。なので、学生たちがお弁当を温めようが何をしようが、誰にも文句を言われる筋合いはありません。ただし、学生何でも相談室と関係のない教職員が無断で使用した場合は、大いに咎めると思いますけどね（半分冗談です）。



写真1 当初の状況

そんなことをしていたら、夏休み期間中に女子学生交流スペースが改修されることになりました。そして運のいいことに、このシステムを改修後のデザインの中に組み込んでいただけることになったのです。当初の配線むき出しの武骨なスタイルから、洗練された何とも洒落なスタイルへと変貌しました（写真2）。



写真2 改修工事後の状況

学生何でも相談室前の電子レンジ・オープンレンジは、太陽光発電のみで運用しています。学生の投稿が発端ですので、学生なら誰でも自由に使用できます。これらを単に利用するだけでなく、その仕組みについても理解してもらえると、なお嬉しいですね。

新任教員の紹介

鹿児島高専の学生のみなさんへ

機械工学科 准教授 杉村 奈都子

はじめまして、R4年4月に機械工学科に着任しました杉村奈都子です。専門は物性の粗視化シミュレーションで、最近は大規模計算に取り組んでいます。

①出身地は？ 出身は横浜で、学生時代を横浜、東京で過ごしました。住まいは職場とともに横浜、神戸、東京といろいろ動きましたが、いまは鹿児島と東京を往き来しています。

②好きな食べ物・苦手な食べ物 食にはあまりこだわりがなく、何でも美味しくいただきますが、お酒は飲みません。せっかく焼酎王国に来たのに笑。

③趣味は？ 趣味ですが、以前は絵を描き、ピアノを弾きと、いま思えば優雅…。時間的余裕のない最近はおっぱら隙間時間に読書です。多読乱読。9月以降に読んだ本は順に「霧島からきた刑事(○)」「軌道春秋I(△)」「軌道春秋II(◎)」「ほいきた、トシヨリ生活(○)」「夜明けのM(○)」「ミカドの淑女(○)」「月の満ち欠け(△)」「孤独という道づれ(◎)」「女たちのシベリア抑留(◎)」。並べてみると、女性が書いた書物が多いです。頭にす〜と入ってくる文章がいいですね。

④どんな科目を担当されていますか？ 今年の担当科目は、創作活動、機械設計法I、創造実習、機械工学演習I、卒業研究です。

⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。最近の研究テーマは、トライボロジー(摩擦学)の大規模シミュレーションです。専門は物性(高分子や金属について)のミクロスケールモデリング。小さなサイズの物性を明らかにするために、計算モデルを立て、コードを作り、大規模計算機で計算する、というのが基本的なアプローチ法です。そろそろ機械学習も取り入れないと。



⑥学生たちへのメッセージ 皆さんに伝えたいのは、とにかくたくさん勉強してください、ということ。環境は整っているのだから、生かさなないのもったいないです。それから学生同士、必ず仲良くしてください。一緒に学んで育っていく同志です。お互いに思いやって仲良くすることが、皆さんに最も必要とされるSDGs策です。

なお、一生懸命努力してもうまく行かなかったり、思いがけず社会や環境が激変して将来設計どころではなくなることも、長い人生にはあるかもしれません。そういう時に問われるのは、世間でいう生き抜く力というような競争原理に基づくものではなくて、生きる哲学、信念といった人間の本質です。これは学生時代から綿々と、一生をかけて培われるものです。どうか常に、大事なことを深く考え、些末なことにとらわれず、心身共に元気に過ごすように心掛けてください。そして、人間の本質を磨いてください。

新任のご挨拶

電気電子工学科 准教授 田中 郁昭

①出身地は？ 生まれ育ちは佐賀県。就職後、茨城県(水戸、つくば)で人生の半分を過ごしています。

②好きな食べ物・苦手な食べ物 何でも食べます。特にカレーライス。もつ鍋はちょっと苦手です。

③趣味は？ 高度成長期に育ったため仕事かな？

④どんな科目を担当されていますか？ 今後の予定を含めて電磁気学、電気数学、電気回路、電気電子工学基礎、応用数学です。

⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

私は31年間民間企業(NTT)に在籍し、その中で「長距離の光通信技術(光通信工学)」と「光ファイバの散乱現象や機械特性を利用した光センシング技術(光計測工学)」を主な研究テーマとして活動してきました。今後はこれまでの経験をベースにしながら喫緊の課題である再生可能エネルギーや、自然災害の予防支援技

術をライフワークとして社会に貢献していきたいと考えています。具体的には被災地のエネルギー供給を想定した光給電技術の実用化や、光ファイバを温度センサとして利用した火山活動の監視技術(温度分布や温度変化速度)のシステム開発を進めていきたいと考えています。



⑥学生たちへのメッセージ 私は企業在籍中に4年間ほど社内の人材育成を担当しておりました。そこには他国からの研修生も含まれていましたが、彼らは日本の通信事情をよく勉強し起業精神も旺盛です。日本の若手社員と比較する中で、将来、日本の学生がこのような人達と競争・共存していけるのだろうか？という懸念を持つようになり、いち早くこの状況を教育現場に伝えたいと思い転職しております。皆さんとは卒業研究などを進めていくなかで大いに議論し、皆さんの夢をかなえられるように一緒に邁進しましょう。社会の入り口は目の前です。その準備はすでに始まっています。

新任のご挨拶

情報工学科 助教 揚野 翔

- ①出身地は？ 鹿児島県枕崎市育ち。
②好きな食べ物 カレー、担々麺、等々。嫌いな食べ物 茎わかめ、苦いもの。
③趣味は？ テレビゲーム全般、弓道、ゲーム音楽鑑賞、ゴルフ(今年から始めました)。
④どんな科目を担当されていますか？ 3年の計測工学、4年の情報理論・通信工学、5年のデジタルフィルタを担当しております。
⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

専門分野: 脳情報科学、生体工学

私の研究テーマは主に脳波 (EEG) を用いた脳内ネットワーク活動について研究しています。これまで行ってきた研究テーマは以下の通りです。

- ・安静時および課題遂行時の動的脳内ネットワーク活動の差異についての解析
- ・睡眠の深さに応じた脳内ネットワーク活動の変化についての解析
- ・記憶処理時の脳内ネットワークの時間変化

秘伝書『限界突破ペタ貼り』で新時代を

一般教育科 准教授 精松 祐介

- ①出身地は？ 鹿児島県です。ちなみに、富隈幼稚園～富隈小3年生まで今はなき高専住宅に住んでおりました。
②好きな食べ物・苦手な食べ物
★いきなりステーキの『ワイルドステーキ 450g』
★サーティワンの『ポッピングシャワー』が大好きです。苦手な食べ物は全くないです!!『出された物は完食第一主義』を心がけております。
③趣味は？
★自宅に設置した120インチホームシアターでの『鬼滅の刃』、『キングダム』、『アトム』の鑑賞
★『FF7クライシス コア リユニオン』プレイ
★精松家秘伝書『限界突破ペタ貼り数楽教材』の改良と新構築
④どんな科目を担当されていますか？
『数学基礎B』、『微分積分IⅡ』、『解析学』です。
⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。
★専門分野は、『数学教育教授法』です。
★研究テーマは、『ICT機器と関連づけた数学教材教授法の研究』です。
⑥学生たちへのメッセージ これまで20年間、鹿児島公

⑥学生たちへのメッセージ

令和4年4月から情報工学科に着任いたしました、揚野翔(あげの しょう)と申します。

出身は鹿児島県の枕崎であり、鹿児島高専情報工学科および専攻科電気情報システム工学専攻の学生として7年間この学校で学んできた一学生でした。この度母校に教員として戻ってこられたことをうれしく思い、これから頑張っていきたい所存です。

私が高専生だったころは友達と遊んだり、部活(弓道)に打ち込んだりとてもエンジョイしていました。その際には先生方に数多くのサポートをしてもらいました。その役目を今度は自分が担っていけたらと思います。

成績や進路等々悩みごとの相談や他愛のない雑談でもいいので気軽に話ししてくれたら幸いです。

教員として未熟ではございますが、学生の皆様と同じように1つ1つ学びながら成長していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



立高校数学教諭として勤務して参りましたが、退職し、令和4年4月より、鹿児島高専一般教育科(数学)准教授として勤務することになりました。公立の50分授業に対して、高専は90分授業で、ゆとりをもって数学指導ができることは非常に有難いことです。高専では、標準的な高校分野だけでなく、大学分野も早期に学び、定期考査ではハイレベルな思考力を要する内容も出題されます。学生の皆さんは是非、高専ではハイレベルな学びをしているんだというプライドと自信をもって日々試行錯誤しながら『勝つコツはコツコツ』の精神で努力し続けてください。また、私が担当している1年生～3年生の学生の皆さんは、精松家に先祖代々伝わる秘伝書(笑)『限界突破ペタ貼り数楽教材』を使って、予習と復習を心掛け、是非とも数学の授業を楽しんで頂けたらと思います。この秘伝書『限界突破ペタ貼り数楽教材』が学生諸君の青春時代の1ページとなって『新時代』を切り開く礎となって頂けたなら、私にとってもこの上ない喜びです!!!!数学やその他のことで何か質問がありましたら、いつでも研究室にお越しくださいませ!待っています!



自己紹介

一般教育科 講師 澁田 諭

①出身地は？ 青森県青森市

②好きな食べ物 抹茶

苦手な食べ物 ドリアン

③趣味は？ 散歩

④担当科目 化学Ⅲ, 化学Ⅳ,
自然科学

⑤専門分野と研究テーマ

専門分野は溶液化学です。構造的な側面から常温常圧から高温高压に至る幅広い熱力学条件下で様々な水溶液にアプローチし、どのような性質を示すのかを研究しています。特に水と油を無理やり混ぜて研究を行っています。

私たちの身体の構成物質のうち、最も多いのが水です。そのため薬やサプリメントといった人工的に作られた物質は水との仲の良さを考慮して分子構造の設計を行わなければなりません。つまり様々な物質と水との間の仲の良さ、もしくは仲の悪さを正しく理解する必要があります。これまでの科学の常識として水と油



は仲が悪く、水を排除するような挙動を示すと認識されてきました。しかしその常識は近年、覆されました。水と仲が悪いと認識されていた油（炭化水素）がある条件下で仲が良くなる場合があるという報告が行われました。私はこれまでの常識には無い新しい水と油の関係性について、そのメカニズム解明のために物質の質量測定やX線を照射することでマイクロな世界から水と油の仲の良さ/悪さを数値的に評価しています。また実験では特殊な装置が必要であるため、自ら設計・開発し、研究を行っています

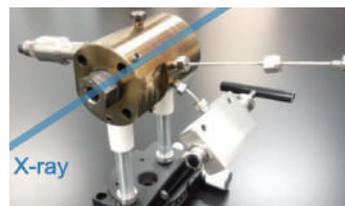


図 1. X線サンプルホルダー

(図 1)。

⑥ 学生たちへのメッセージ

高専では仕事に関する専門的な知識を早い段階で学ぶことができます。ただし専門的な知識と同じくらい、もしくはそれ以上に基礎知識を使う場面が多いのが社会です。すべての科目に全力で取り組んでいきましょう。



後援会だより

感謝

後援会 会長 瀬戸口 浩一

日頃より、後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

会長職を担うこととなり、身に余る大役を仰せつかり、責務の重大さに身の引き締まる思いでの2年間でした。

新型コロナウイルス感染症は、後援会活動にも大きく影響し、行事の中止やリモートなどにより、予算執行が全額支出できない状況が一昨年から続いております。本年度に入りこうした環境にも改善に向けての光が見え始めたかにも感じられますが、まだまだ予断は許されません。ウィズコロナの環境下で学びを継続していく学生のために、学校と歩調をあわせながら、リスクを慎重に見極めつつ、ふさわしい事業、予算執行を行って来ました。そんな中、高等専門学校体育大会において好成績やコンテストでの受賞など嬉しい話も多くあります。また、後援会としても先生方や高専の事務局のご協力を得て3年ぶりに本校支部会を対面による開催も出来ました。一日も早く皆様が元気にコロナ禍前のような生活が送れるよう願うばかりです。

私ごとではありますが、後援会役員として11年間、最後の2年間は、会長として活動してまいりました。はじめは、予算の執行についての正当性についての協議や審議でついで行くのが精一杯でした。コロナ禍の予算の中で一番大きな学生支援経費や国際交流推進経費などの予算執行が、行事の中止やリモートなどにより全額支出できない状況は、学生が発表の場や学ぶ機会を奪われている状況。また、総会、理事会、役員会が開催できない状況で後援会活動の在り方等を考えることが多くなりました。コロナは、日常生活にも大きな影響が出る状況下で学校や学生を守る必要があることに新たに気付くことができ新たに予算拡充しました。コロナ禍で会員の皆様のご支援ご協力により2年間の会長職を終えようとしています。感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、鹿児島高専と後援会の益々の発展を祈念いたします。

後援会活動を通じて

後援会 副会長 桐原 隆志

高専に入学する多くの子供が目標や目的を持って入学しているのですが、入学式で「高専生は生徒ではなく学生です。自らが学ぶ場所です。」の言葉に、子供はもちろんのこと、親としてもかなりの衝撃を受け、今も鮮明に記憶に残っています。つい先日まで中学生だった子が、大学生と同じ扱いで高専で無事学んでいけるのか、入学前にある程度は在学生や卒業生の保護者から聞いてはいたものの凄く不安でした。

時が経つにつれて子供も少しずつ学生生活に慣れ、私も入学時から後援会の役員を拝命され活動しながら、高専という学校を少しずつ理解し今日まで来ました。

後援会役員として活動させていただき、保護者からいただいた会費を無駄なく有効的に学生支援に繋げるために、学生活動に対し公平で平等に、学校からの要望はどこまで応えるかなど毎回議論を重ね、一役員として貴重な5年間を過ごすことができました。

保護者が学校に行く機会が少なくコロナ禍で難しい面もありますが、後援会主催の支部会や学校行事等へ参加いただくことによって、子供達の状況、学校の経営方針が解りますので、可能な限り積極的に参加してみてください。

後援会活動を通じて高専という学校を少しは理解したものの、まだまだ理解できなかった面もあります。長いようで短かった5年間。コロナ禍の中で経験できたこと、コロナ禍の中だったから経験できなかったこと、これも一つの時代の流れかと思います。

春から社会に飛び立つ息子。グローバル社会に対応すべく高専で学んだことを活かしながら、日本の製造業の一駒となって1日も早く1人前のエンジニアとして世の中のために活躍できる人材として活躍できる日を楽しみに待ちたいと思います。

これからどのような時代になるのか想像もできませんが、鹿児島高専で学べることはとても素晴らしいことですので、これからも後援会活動を通じ、学生が活躍できる場の一役を担う組織であり続け、日本を背負って活躍できるエンジニアが一人でも多く育ち、鹿児島高専の名を広めてくれることを願います。

鹿児島高専並びに後援会に携われた5年間に感謝をし、学生を始め、皆様の益々の御活躍を御祈念致します。

感謝

後援会 副会長 塩川 ルミ子

息子の高専合格が決まり、一学年先輩のお母さんからお声かけいただいてクラスの理事をすることに。「高専」の知識もあまりない中で引き受けた理事でしたが、秋に感染対策に配慮された理事会が開催され初めて校内に。コロナ過での受験及び入学でしたので、保護者でさえ学校に自由に入出入りするの難しい環境にあり、自分自身「高専」という未知の世界の学校の雰囲気や学校運営についての話を聞いたのは有難かったです。11月には「本校支部会」に参加し、専攻科生や卒業生から高専生活での経験、進学や就職に関するご自身の体験を聞くことができ貴重な時間になりました。

ご縁があり、今年度後援会副会長をすることに。

役員の方からご指南いただきながら11月20日、全保護者へ案内する形での「本校支部会」が3年ぶりに開催されました。多くの保護者が参加され、学校の先生方をはじめ卒業生や専攻科生の貴重なお話を聞くことができ、保護者からの質疑応答も活発に行われ、皆さんの「高専」への関心の高さがひしひしと感じられました。準備から不慣れな点ばかりで理事の皆さんにはご迷惑もおかけしましたが、ご協力いただいた全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

思えば半成人式の時には「鹿児島高専に入学します」と作文で発表していた息子、無事に入学出来ましたが決して安泰な受験の状況ではなかったです。親としては本人の頑張りをサポートするしかなく、目標に向かってコツコツ勉強し見事合格を勝ち取った時は涙が出るくらいうれしかったです。いざ入学するにあたりこれまで仲の良かった友だちとは離れ、新しい友だちが出来るか不安だったようですが、クラスでもサッカー部でもとても良い仲間に出会えているようでホッとしています。部活と勉強の両立については課題もたくさんありますが…学校での出来事や部活の話をしてくれる時が私にとって至福の時間です。

息子が入学してくれたおかげで先生方や役員の方々、サッカー部の先生方や保護者の皆さん、息子の友だちと会うことが出来ました。ご縁に感謝。

役員の仕事をするにあたって協力してくれる家族にも感謝。私はつくづく幸せだなと…感謝。

高専との出会い～巣立ち

電気電子工学科5年 理事 日浦 愛

長男が高専に興味を持ったきっかけは、小学生の頃に参加した公開講座です。朝、学校に送った時は広々とした校内に戸惑っていましたが、迎えに行くと満面の笑みで感想を話してくれました。講師の先生の説明が分かりやすく、とても楽しかったようです。その後も様々な公開講座に参加し、実験や実習、実技を学べる鹿児島高専を志望校に決めました。

高専は一般の高校と異なる所が多いので事前に調べたつもりでしたが、実際に入学すると予想を遥かに超える自由な校風で、のびのびと楽しそうな長男を見て、次男も高専に進む事を決めました。

部活動は、長男はメカトロニクス研究部、次男は卓球部に所属し、どちらも面倒見のいい先輩と気の合う仲間恵まれ、充実した活用ができました。メカトロニクス研究部では離島を含む県内各地の小学校を訪問してロボット公演を行うという貴重な体験もさせていただきました。二人とも全国大会には一歩及ばず悔しい思いをしましたが、みんなで試行錯誤し練習に励んだ時間は、息子たちを大きく成長させてくれました。

高専は長期休暇が年に2回もあります。休みの前はスマホ漬けにならないか心配しましたが、部活動やアルバイト、TOEICの勉強など、自分で計画を立てて有意義に過ごしていました。特に長男が4年生の夏季休業に参加した大学でのインターンシップは、他の高専の学生や大学生と交流を持ち、進路を考える良い機会になりました。

コロナ禍で中止になったり規模を縮小したりした行事もあり、高専生活を満喫できなかった面もありますが、多くの事を学び経験した7年間でした。ご指導いただいた先生方をはじめお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

いつも心に太陽を

電子制御工学科5年 理事 前村 由美

今から5年前、双子の弟が高専へ行きたいと言い出し学校見学へ。兄の勇斗も付き添いで見学。弟は辞退し、勇斗は進学希望。驚きと同時にとても嬉しかった事を覚えています。親友と一緒に猛勉強。無事に合格を頂き、憧れの高専生へ。制服のボタンが眩しいこと。亡くなった祖父母へ見せたかったです。入学式、4・5年生を見ると立派な大人で、うちの子も素敵な上級生になれるのかしらと不安になりました。コロナ禍で多くの催し物が中止となり、寂しくも感じましたが、4年生時の体育祭が忘れられない思い出となりました。中学までリレー選手だったので本人も親も過信し、練習もせず科のリレーへ。優勝を決める大事なところで見事に転倒。すぐに立ち上がりましたが、2位へ。本人はずっと倒れ込んだまま、そこへ団長さんが来てくれて背中を抱え大丈夫と何回も声を掛けて、クラスメイトのみんなも支えてくれました。高専にきて本当に良かったと思いました。今年はリベンジ。トレーニング等の準備をし、科のリレーで見事優勝。青春時代の素敵な思い出になりました。

小さな子供があっという間に大人の階段を登っています。自分で就職を決めて東京へ行きます。私達は、故郷鹿児島で子供たちが健康であることを祈っています。これから先、楽しい事ばかりではありません。辛く悲しい事も沢山あります。ですが、自分の気持ち次第です。少し気持ちを変えると、取り方も変わってきます。“いつも心に太陽を”持っていてください。暗くなると悪くなるばかりです。人生は1回きり。後悔する事がないように人生を、思いきり、楽しんで生きて欲しいです。笑顔を大切に。悪いことが起きた後はいいことが必ずきます。ピンチはチャンスです。鹿児島高専卒として、自信をもって楽しく、伸び伸びと仕事をして欲しいです。諸先生方、後援会の皆様、大変お世話になりました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

高専のアリス達へ

電子制御工学科 理事 岡元 直子

娘が小学生時代に縁あって鹿児島高専の吹奏楽部の学生方に楽器の指導を受ける機会がありました。その時に触れ合った学生方との楽しかった記憶が最初の高専のイメージとなり、幼心に焼き付いたようでした。

時がたち中学生になり、またまた縁があり高専の名前を聞く機会が娘の中で増え、気が付けば志望校が「鹿児島高専」とみんなに話しており喜んだのと同時に心配も感じたのを覚えています。

コロナ禍の中、学校見学等ができず実際の環境や雰囲気を経験しないまま新しい環境へ飛び込むことに親としては不安もありましたが、そんな心配をよそに学校生活・寮生活を楽しんでいる娘やその友人達を見ると、好奇心いっぱい白うさぎを追いかけて不思議の世界へ飛び込んだアリスを思い出してしまいました。

中学生時代とは異なり、初めて学ぶ専門教科の授業、実習では溶接を試してみたり、体育祭で学科としての団結を感じたりと目を輝かせて話してくれる娘を見るとこの物語の続きが楽しみで仕方がありません。

今年からはクラスも学科混合となり一つのクラスに五つの異なる学科の学生が在籍しています。

お陰様で違う学科の学生とも仲良くなれており、友人の幅も広がっているようです。

不思議の国の冒険は始まったばかり、楽しいことや時には困難にぶつかることもあるでしょうが、私も一緒に楽しんでいきたいと思います。

トランプの女王にならないように気を付けながら。

うらやましい

情報工学科1年 理事 白鳥 竜也

君の弟が生まれたとき僕は2ヶ月ほど育児休暇を取った。当時はまだ男性の育休は珍しく、周りから驚かれた。それでも君と過ごした2人の時間はとても有意義だった。自分と家族のこれからをゆっくり考えることができた時間だった。

小さい頃はおとなしくて引っ込み思案だった君も、どんどん成長し、中学では部活動のキャプテンまで任された。

高校進学を考えると、親としては学費や就職のことを考えて鹿児島高専を勧めた。公開授業などにも積極的に連れて行った。君も高専を目指して文武両道でがんばった。その結果晴れて合格し、今春から通学している。

朝はゆっくり、家族の中で一番最後に出かけ、部活をして帰ってくる。休みには友達と映画にカラオケにと青春を謳歌している。

君に高専を勧めておきながら一番驚いているのは僕自身だ。まさかこんなに楽しそうな高校生活があるなんて！僕の高校は田舎の進学校だった。朝の補習に始まり、夕方も補習があった。片道1時間弱の自転車通学で冬は朝真っ暗なうちに家を出て、部活もしていないのに帰り着くころにはヘトヘトの生活。まさに勉強付け。苦い思い出だ。

君がうらやましい。自ら学び、幸せな生き方を考える、Well-beingを志向する鹿児島高専の教育。理想的な教育環境だ。あとは君自身の頑張り次第。

ただ、勉強だけではなくて広く社会に目を向けてほしいと思う。世の中では何が起きて、どのように動いているのか。旅に出るのもいい、働いてみるのもいい。その中でこれから自分は何の役割を担って生きて行きたいのかじっくり考えることも大事じゃないかな。情報が溢れ、ものすごいスピードで回っている時代だからこそ、かつての僕のように考える時間を意識して持ってほしい。

何はともあれ、始まったばかりの鹿児島高専での学校生活。楽しんでいこう。応援してるよ。

学び舎リニューアル②

鹿児島高専内にコンビニ『ヤマザキYショップ』オープン

総務課長 平野 秀二

令和4年4月、厚生会館1階にコンビニ『ヤマザキYショップ』がオープンしました。オープンセールでは魅力的な特売品が店頭並び、多くの学生、教職員が来店し、賑わいを見せていました。

通常の営業時間は月～金の8:15～15:00、17:00～19:00となっていて、昼食の調達はもちろん、朝食を買い足す教職員や部活動終了後の学生の利用にも対応できる時間帯となっています。

これまで鹿児島高専には学生食堂横に併設された食品販売コーナーと、小規模の文房具類の売店がありましたが、いずれも取扱品目数、営業時間の面で十分とは言えない状況でした。これを解決するため、財務係・用度係・施設係等が連携して、1年がかりでコンビニ導入を企画しました。

販売品目は写真の通り、お弁当、パン・サンドイッチ、ホットスナック、カップ麺、お菓子、アイスクリーム、

ジュース、デザートなど食料品のほか、文房具や日用雑貨を含む豊富な品ぞろえとなっています。



また販売以外にも宅急便発送や衣類クリーニング、切手販売の取次も行っています。高専生活で必要とされるものは概ね揃っているのではないのでしょうか。店舗前のコミュニケーションスペースにはテーブルとイスが設置されており、買い物後、その場で飲食が可能です。

代金支払いは現金だけではなく、PayPayをはじめとした各種QRコード決済や、交通系IC、楽天Edyなどの各種電子マネーにも対応しており、とても利用しやすいものとなっています。

これからも多くの皆さんに積極的に利用していただき、鹿児島高専の魅力的なスポットのひとつにしていければと思っています。

編 集 後 記

「鹿児島高専だより」第77号をお届けいたします。今年度も、昨年度に引き続き学生たちの活動や活躍をお届けすることを主眼に作成いたしました。2022年は、北京冬季オリンピックやパラリンピックや、サッカーワールドカップでの日本勢の活躍が印象に残る年でしたが、高専生もそれに負けないぐらい様々な場面で活躍しているように感じました。身内のひいき目かとは思いますが、やはり学生たちが頑張っている様子を見たり、聞いたりすると、とてもうれしく感じます。

また、今年度は施設面での改修もありましたので、記録と記念を兼ねて「学び舎リニューアル」の記事を掲載することいたしました。景観健忘症とでもいうのでしょうか、変わった時には変わったところを覚えているものですが、定着するとそれが当たり前になるからか、以前はどんな感じだったのかを思い出せなくなりますよね。

「学び舎リニューアル」の記事が、鹿児島高専の記憶の補助線になればと思います。

最後になってしまいましたが、「高専だより」の発行にあたり、ご寄稿いただきました執筆者の皆様には厚く御礼申し上げます。また、岸田広報センター長をはじめとする広報センター委員の皆様方には、様々な面でご協力・ご高配をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

「高専だより」主担当：町 泰樹

「高専だより」編集委員会（広報センター）

広報センター長	岸田 一也（電子制御工学科）
広報副センター長	町 泰樹（一般教育科）
委員	白石 貴行（機械工学科）
	今村 成明（電気電子工学科）
	瀬戸山康之（電子制御工学科）
	新徳 健（情報工学科）
	内田 一平（都市環境デザイン工学科）

担当事務 学生課図書情報係

「鹿児島高専だより」第77号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報センター
発 行 鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1

